

平成27年度 第11回

三重県伊勢志摩サミット推進本部会議

事項書

日時 平成28年3月16日(水)

10:15~10:35

場所 プレゼンテーションルーム

- 1 各委員会、各部局からの報告

- 2 伊勢志摩サミット推進局からの報告
 - (1) ジュニア・サミットについて【資料1】

 - (2) 開催50日前ウィークイベントについて【資料2】

 - (3) 第3回伊勢志摩サミットフォーラムの開催について【資料3】

 - (4) 三重県情報館(仮称)について【資料4】

 - (5) 海外プレスツアーの取材に基づく報道状況と参加者からの意見、今後の予定等について【資料5】

 - (6) 弁当供給体制の整備について【資料6】

 - (7) 伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体代表者での総理大臣官邸訪問について【資料7】

 - (8) 伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策について【資料8】

 - (9) 協賛、応援、寄附の申込状況等について【資料9】

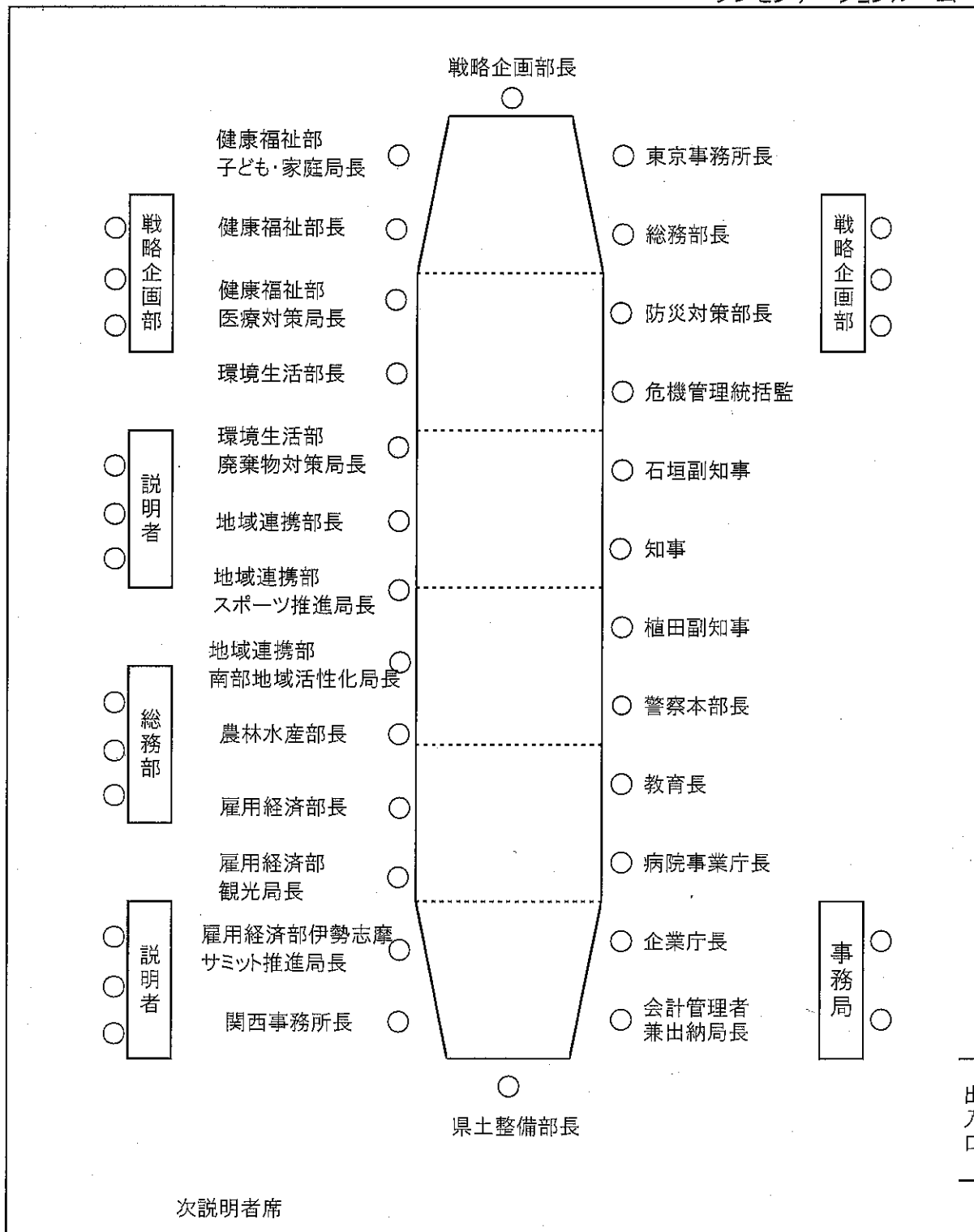
 - (10) その他
 - ・伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール【資料10】
 - ・現地事務所の設置について【資料11】

【配布資料】

- ・資料1：ジュニア・サミットについて
- ・資料2：開催50日前ウィークイベントについて
- ・資料3：第3回伊勢志摩サミットフォーラム
- ・資料4：三重県情報館（仮称）について
- ・資料5：海外プレスツアーの取材に基づく報道状況と参加者からの意見、今後の予定等について
- ・資料6：弁当供給体制の整備について
- ・資料7：伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体代表者での総理大臣官邸訪問について
- ・資料8：伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策の必要性
- ・資料9：協賛、応援、寄附の申込状況等について
- ・資料10：伊勢志摩サミット開催に向けた全体のスケジュール
- ・資料11：現地事務所の設置について
- ・参考資料：3月10日戦略企画雇用経済常任委員会所管事項説明資料

平成27年度第11回三重県伊勢志摩サミット推進本部会議(3/16)座席表

プレゼンテーションルーム



平成28年3月16日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

ジュニア・サミットについて

1 「2016年ジュニア・サミットin三重」の概要

ジュニア・サミットは、伊勢志摩サミットの関連行事として、国が主催するもので、G7各国から選考された15～18才の若者が集まり、世界が直面する課題について、青少年の視点から英語で議論を行います。

今回は、三重県が提案した「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」を討議テーマとして議論し、意見をまとめ、成果文書を各国首脳に届けます。

伊勢志摩サミット三重県民会議では、開催期間中、ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達と交流する機会を提供します。

2 内容

(1) 開催期間（予定）

平成28年4月22日から28日まで

（4月21日会場入り、4月29日東京出発）

<プログラム>（予定）

4月21日（木）桑名市到着

4月22日（金）開会式、会議

4月23日（土）会議、討議に資する視察、交流行事

4月24日（日）会議

4月25日（月）県内分散型体験・交流行事

4月26日（火）会議、三重県送別行事、東京に移動

4月27日（水）政府首脳に成果文書提出（27日又は28日）、都内視察

4月28日（木）同上

4月29日（金）東京出発

(2) 主会場

ナガシマリゾート（桑名市長島町浦安）

(3) 主催

外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議

(4) 視察、体験・交流先について

討議テーマに基づき、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をする方策について議論するため、開催期間中の4月23日午後、三重県ならではの討議テーマに関する視察を行うことが決定し、次の施設へ訪問予定です。

- ・赤須賀漁業協同組合（桑名市大字赤須賀86番21号）
- ・四日市公害と環境未来館（四日市市安島一丁目3番16号）
- ・NTN（株）先端技術研究所（桑名市陽だまりの丘5丁目105番）

また、討議日程終了後の4月25日、ジュニア・サミット参加者の皆さんが県内4コースに分散して各地を訪れ、三重の美しい自然や豊かな伝統・文化などを体験・体感するとともに、県内高校生をはじめ県民との交流を深めることが決定しました。

- ・Aコース 御在所ロープウェイ（菰野町）、鈴鹿サーキット（鈴鹿市）、関宿（亀山市）
- ・Bコース 深野だんだん田（松阪市）、まごの店（多気町）、一身田寺内町 専修寺（津市）
- ・Cコース 伊賀流忍者博物館（伊賀市）、赤目四十八滝（名張市）
- ・Dコース 伊勢神宮（伊勢市）、いつきのみや歴史体験館（明和町）

（5）日本代表参加者の決定

日本代表については、外務省から三重県に対し、三重県内から選出するよう依頼があり、広く公募したうえで昨年12月に選考会を実施し、4名を選考するとともに、2月25日に発表しました。

- ・稲葉 陽樹（いなば はるき）
三重県立津高等学校 2年生 男子 津市在住
- ・加藤 杏弥（かとう あみ）
三重県立川越高等学校 2年生 女子 四日市市在住
- ・上堀内 陸王（かみほりうち りくおう）
私立東海高等学校（愛知県） 1年生 男子 桑名市在住
- ・藤山 春衣（ふじやま はるい）
三重県立四日市高等学校 2年生 女子 四日市市在住

3 今後の取組方針

- （1）ジュニア・サミットに日本代表として参加する高校生については、引き続き事前研修を行います。
- （2）県内高校生等との交流を含む県内分散型体験・交流行事については、関係市町及び関係施設と実施に向けた調整を行っていきます。また、訪問先でのおもてなしや警備体制について、関係市町や関係施設に協力を依頼してまいります。
- （3）開催日程を通して、県内高校生等と参加者の交流や、県内農業高校等による飾花活動等、少しでも多くの県内高校生が参画できるよう、引き続き外務省と協議します。
- （4）開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、県内の市町や関係者と緊密な連携を図っていきます。

平成28年3月16日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課**開催50日前ウィークイベントについて**

4月6日は、伊勢志摩サミット開催までちょうど50日前となります。

伊勢志摩サミット三重県民会議では、節目日である4月6日を中心とする「50日前ウィーク」に、県民のみなさんに参加いただく「花いっぱい作戦」のスタートセレモニーや、第4弾公式ポスターの発表などの情報発信に取り組みます。

1 県民会議主催の事業**(1) 県民の皆さんに参加いただく取組**

「おもてなし大作戦」、第3回サミットフォーラムなどを開催し、県民の皆さんに参加いただく取組を行います。

①伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」～「花いっぱい作戦」スタートセレモニー

「おもてなし大作戦」の「花いっぱい作戦スタートセレモニー」を、ジュニア・サミットの主会場である桑名市で開催します。

日時：4月2日（土）14時00分～15時30分（予定）

場所：桑名市総合福祉会館 大会議室（桑名市常盤町51）

内容：主催者等あいさつ、農業高校生による花の贈呈式、おもてなしPR、ふるまいのほか、ジュニア・サミットや桑名市に関するPRなど（予定）

申込：不要

主催：伊勢志摩サミット三重県民会議

共催：ジュニア・サミット桑名市民会議

②寄せ植え体験講座の開催【3月2日資料提供済み】

伊勢志摩サミット開催に向けて、三重県を訪れる方々をおもてなしの心と美しい花々で歓迎するにあたり、県民の皆さんに花に親しんでいただく機会として、「寄せ植え体験講座」を開催します。

会場：県庁舎（桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、志摩、伊賀、尾鷲、熊野）

日程：4月2日（土）＜伊勢・伊賀＞

4月3日（日）＜桑名・志摩・熊野＞

4月9日（土）＜四日市・鈴鹿＞

4月10日（日）＜津・松阪・尾鷲＞

申込期限：3月20日（日／祝）

総参加定員：1,000名（参加費@500円）

③第3回伊勢志摩サミットフォーラム【3月4日資料提供済み】

日時 4月16日（土）13時00分～15時45分（開場12時00分）

場所 三重県総合文化センター中ホール（津市一身田上津部田1234）

内容

- (1) 挨拶 鈴木英敬伊勢志摩サミット三重県民会議会長（三重県知事）、前葉泰幸津市長
 - (2) 講演「英国人アナリスト、三重の未来を語る」（仮題）
講師 デビッド・アトキンソンさん（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）
 - (3) トークセッション「世界とつながる、三重の未来」
スピーカー 高野秀行さん（ノンフィクション作家）
田中里沙さん（株式会社宣伝会議取締役副社長・編集室長）
寺岡夕里さん（東北大学大学院生、2009年ジュニア8サミット日本代表）
デビッド・アトキンソンさん（株式会社小西美術工藝社代表取締役社長）
- コーディネーター 鈴木英敬会長
- ・申込期限 4月5日（火）24時 ※募集人員 650名

④外国語案内ボランティアおもてなし研修の実施【3月10日資料提供済み】

外国語案内ボランティアの方等を対象に語学研修及びおもてなし研修を実施します。なお、県全体の接遇力を向上させるため、今回のおもてなし研修には、外国語案内ボランティア（300名）に加え、各市町の観光関係部署の職員等（約100名）も参加します。

【語学研修】

3月26日（土）10時～15時 伊勢市観光文化会館

【おもてなし研修】

4月15日（金）13時30分～16時30分 三重県総合文化センター

4月16日（土）9時～12時、13時30分～16時30分 三重県伊勢庁舎

4月17日（日）9時～12時、13時30分～16時30分 鈴鹿医療科学大学
白子キャンパス

※外国語案内ボランティアの方は、語学研修2回、おもてなし研修1回の受講が必修です。

(2) 国内外への情報発信の取組

第4弾ポスターの掲示、動画の放映、海外プレスツアーの実施など国内外への情報発信に取り組みます。

①第4弾公式ポスターの発表及び表彰式の開催【3月16日表彰式終了後資料提供予定】

日時：3月16日（水）14時30分から15時

場所：三重県庁 プレゼンテーションルーム

<最優秀賞> 三重県 津市 積木孝典さん

<優秀賞> 三重県 津市 坂倉亮子さん

愛知県名古屋市 安藤真理さん

愛知県名古屋市 秀島康修さん、安藤真理さん

・テーマ：「三重から世界へ（三重の魅力の発信）」

・3月下旬から随時ポスターを掲出します。

②海外プレスツアー

・著名シェフと海外メディアを招へいたプレスツアー

期間：3月28日～30日

※詳細については、後日発表予定

- ・関西地域振興財団主催プレスツアー
期間：4月4日、5日
対象：在京の海外メディア特派員
※詳細については、後日発表予定

③CNNでの動画放送

2月にANAの「Taste of JAPAN」三重県特集で30分番組を機内で放映。その30分番組の素材を外国人の目線で1分間に編集し、CNNにて3月に48回放送。

2 主な協賛・応援事業

(1) ANAホールディングス株式会社様の協賛による情報発信

- ①伊勢志摩サミットロゴマーク及び伊勢志摩サミット三重県民会議のシンボルマークの機体への表示（デカール）
4月からサミット終了までの間、ANAの機体5機にデカールが表示されます。
※詳細については、後日発表予定

- ②機内誌での広報

国内線の機内誌「翼の王国」4月号1ページにてサミットが開催される三重県をPR

(2) イオングループ様の応援事業による伊勢志摩サミット開催記念「みえ伊勢志摩フェア」との連携

4月8日、埼玉県のイオンレイクタウンを皮切りに、全国各エリア（イオン全国550店舗）において「みえ伊勢志摩フェア」開催。下記7店舗においては、サミット参加国にちなんだ「パッケージクラフト展」、「サミット紹介パネル展」等も実施。

- 4月 8日（金）～10日（日）イオンレイクタウン（埼玉県越谷市）
- 4月15日（金）～18日（月）イオンモール東員（三重県員弁郡東員町）
- 4月20日（水）～24日（日）イオンモール伊丹（兵庫県伊丹市）
- 5月13日（金）～16日（月）イオンモール沖縄ライカム（沖縄県中頭郡北中城村）
- 5月20日（金）～23日（月）イオンモール岡山（岡山市北区）
- 5月27日（金）～29日（日）イオンモール福岡（福岡県糟屋郡粕屋町）
- 6月24日（金）～26日（日）イオンモール札幌平岡（北海道札幌市）

3 三県一市との連携事業

「伊勢湾総合対策協議会・海岸漂着物対策検討会」では、三県一市で連携して実施している「伊勢湾 森・川・海のクリーンアップ大作戦」において、サミット開催50日前ウィークに合わせ、4月2日～10日の間に清掃活動を実施してもらうよう、三県一市の各団体に参加の呼びかけを実施します。現在、登録を受け付けています。

（事務局：三重県環境生活部 大気・水環境課）

4 県事業および市町連携事業

市町や県各部署が主催するイベント等でポスターやのぼり等を掲示することによりサミットのPRを行います。

(1) 各市町連携事業（ポスター・のぼり等でPR）

月日	行事名	場所	市町
3.26	J R名松線全線復旧記念式典	八幡地域住民センター (伊勢奥津駅となり)	津市 都市計画部 名松線復旧推進室
3.26	J R名松線開通80周年記念 イベント&復旧祭	J R名松線伊勢奥津駅周辺	津市 都市計画部 名松線復旧推進室
3.26 ～6.19	速報展「発掘された鈴鹿2015」	鈴鹿市考古博物館特別展示室	鈴鹿市考古博物館
3.26	始神峠さくらまつり	始神さくら広場	紀北町 企画課
3.27	四日市STYLE2016 in 大阪 ～文化が薫るまち、よっかいち ～	ディアモール大阪	四日市市 観光推進課
3.27	東紀州広域体育協会講演会	尾鷲市立中央公民館	尾鷲市 生涯学習課
3.27	熊野 いこらい市	熊野市記念通り	熊野市 水産・商工振興課
4.1～4.30	グランド ハイアット 東京 伊勢志摩厳選食材フェア	グランド ハイアット 東京 和食・日本料理「旬房」	伊勢市、志摩市、南伊勢町、 鳥羽市(代表窓口 鳥羽市 農水商工課)
4.1～ 5.1	コマヤスカン 『新幹線のたび』原画展	長島輪中図書館	桑名市 長島地域振興課 長島輪中図書館
4.1～5.5	2016 オープンガーデン熊野	熊野市内一円 協力家庭等	熊野市 市長公室
4.2	第19回榊原温泉さくら祭り	津市榊原町地内 (榊原自然の森 多目的広場)	津市 久居総合支所地域 振興課榊原出張所
4.2～3	第25回エキサイト四日市・バ ザール2016	諏訪新道、三滝通り、諏訪栄町ア ーケード内(公園通り等)、諏訪 公園、近鉄駅周辺商業地域	四日市市 商業勤労課
4.2	尾鷲イタダキ市	尾鷲魚市場	尾鷲市 水産商工食のまち課
4.2	しろやま嘉隆まつり	鳥羽城跡城山公園	鳥羽市 農水商工課
4.2	第11回横山さくらまつり	横山さくらまつり特設会場	志摩市観光協会
4.2	『伊勢志摩サミット』開催50 日前記念放流 ～鳥羽志摩の海女さん 豊 かな海のめぐみに感謝～	須場の浜(大王町波切)	志摩市企画部 サミット推進室
4.2	伊賀上野NINJAフェスタ 2016(ちびっ子忍者ダンス)	伊賀市上野丸之内周辺	伊賀市 産業振興部 観光戦略課
4.3	第19回四日市シティロード レース大会	中央緑地公園	四日市市スポーツ課

3.16~4.3	海女と真珠展	鳥羽一番街 鳥羽一番旅コンシェルジュ	鳥羽市農水商工課
4.3	「熊野街道ひなめぐり」(3/19 ~4/3) クロージングイベント	熊野古道おもてなし館	熊野市水産・商工振興課
4.3	基石の里 熊野神川桜まつり	熊野市神川町神上	熊野市 観光スポーツ交流課
4.3	伊賀の里魅力満載ウォーキング	JR伊賀上野駅	伊賀市 企画振興部 総合政策課
4.3	さくらまつり	鍋田川いこいパーク	木曾岬町 産業建設課
4.3	朝日町少年団 入団式	朝日町体育館	朝日町 教育課
4.3	第29回桜まつり	玉城中学校グラウンド	玉城町 産業振興課
4.3	第20回宮リバー度会パーク 春まつり	宮リバー度会パーク	度会町 産業振興課
4.9	留学生と高校生の国際交流ツ アー	NTN 株式会社先端技術研究所 なばなの里 六華苑	桑名市 ジュニアサミット推進課
4.9~4.17	第40回鈴鹿市植木まつり	鈴鹿市フラワーパーク	鈴鹿市 産業振興部 農林水産課
4.9	桜まつり	名張市夏見中央公園	事務局：名張商工会議所 役所担当：名張市産業部観 光交流室
4.9	忍者・忍術学講座	ハイトピア伊賀3階	伊賀市 企画振興部 総合政策課
4.10	2016 龍王桜マラソン&ウォー キング大会 V o 1.26	津市錫杖湖水周辺	津市 芸濃総合支所地域振興課
4.10	町民ソフトボール大会	朝日町町民スポーツ施設	朝日町 教育課
4.14 ~ 4.16	伊勢志摩サミット開催記念競 輪FI	松阪競輪場	競輪事務所
4.16	高虎楽座	津市大門ほか	津市 商工観光部商業振 興労政課
4.16 ~5.10 (予定)	新茶摘み取りイベント	鈴鹿市山本町周辺	鈴鹿市 産業振興部 農林水産課
4.17	伊賀上野NINJAフェスタ 2016 (伊賀の国コスプレ春の陣 2016)	伊賀市上野丸之内周辺	伊賀市 産業振興部 観光戦略課
4.17	子ども学校開校式	朝日町保健福祉センター	朝日町 教育課

①-1「クリーンアップ作戦」各市町連携事業（予定を含む）

月日	活動市町	備考
2.7~2.21	鳥羽市	伊勢志摩サミット100日前グリーンアップキャンペーン
2.10~2.17	津市	公共施設のトイレの清掃・点検
2.14	四日市市	自治会、商工会議所等によるグリーンアップ活動
2.14	伊勢市	伊勢志摩サミットおもてなし会議によるグリーンアップ活動
2.14	鈴鹿市	自治会によるグリーンアップ活動
2.14	尾鷲市	自治会によるグリーンアップ活動
2.14	亀山市	自治会によるグリーンアップ活動
2.14	鳥羽市	自治会によるグリーンアップ活動
2.14	志摩市	伊勢志摩サミット市民会議によるグリーンアップ活動
2.14	多気町	町内各所におけるグリーンアップ活動
2.14	南伊勢町	自治会によるグリーンアップ活動
2.14	紀北町	自治会によるグリーンアップ活動
2.16	鳥羽市	市庁舎周辺のグリーンアップ活動、観光協会によるグリーンアップ活動
2.16	伊賀市	職員によるグリーンアップ活動
2.17	松阪市	自治会によるグリーンアップ活動
2.21	南伊勢町	自治会によるグリーンアップ
2.28	木曾岬町	木曾岬スポーツ少年団によるグリーンアップ活動
2.28	南伊勢町	自治会によるグリーンアップ活動
3.5	桑名市	ジュニア・サミット桑名市民会議によるグリーンアップ活動
3.12	四日市市	鈴鹿川クリーン作戦
3.13	亀山市	地区衛生組織連合会によるグリーンアップ活動
3.20	菰野町	菰野町クリーン大作戦
3.26	鈴鹿市	白子公民館
4.2	鈴鹿市	自治会によるグリーンアップ活動
4.3	鈴鹿市	自治会によるグリーンアップ活動
4月中旬~5月下旬	鈴鹿市	自治会、団体等によるグリーンアップ活動
4.3	度会町	春祭開催時におけるグリーンアップ活動
4.6	伊賀市	職員によるグリーンアップ活動
4.6	川越町	川越町工業団地連絡協議会によるグリーンアップ活動
4.10	大台町	町民によるグリーンアップ活動
4.11	桑名市	自治会によるグリーンアップ活動
4.12	鳥羽市	観光協会加盟会員によるグリーンアップ活動
4.16	桑名市	自治会によるグリーンアップ活動
4.17	鳥羽市	鳥羽清港会（第39回海の大掃除）
4.17	志摩市	賢島グリーンアップウォーキング
4.23	南伊勢町	町内各主体によるグリーンアップ活動
4.24	東員町	町内各主体によるグリーンアップ活動
4.28	鈴鹿市	一宮公民館

4月～5月	鳥羽市	自治会によるクリーンアップ活動
5月上旬～中旬	尾鷲市	職員によるクリーンアップ活動
5.7	伊勢市	伊勢志摩サミット伊勢おもてなし会議によるクリーンアップ活動
5.14	いなべ市	職員によるクリーンアップ活動
5.15	伊勢市	自治会によるクリーンアップ活動
5.15	名張市	名張クリーン大作戦 2016
5.15	亀山市	イベント開催時（里山公園みちくさ）におけるクリーンアップ活動
5.15	朝日町	自治会によるクリーンアップ活動
5.15	多気町	自治会によるクリーンアップ活動
5.15	大紀町	町民によるクリーンアップ活動
5.17	鈴鹿市	郡山公民館
5月中旬	熊野市	七里御浜海岸清掃
5.22	松阪市	自治会によるクリーンアップ活動
5.22	紀北町	自治会によるクリーンアップ活動
5.27	鈴鹿市	清和公民館

① -2 「花いっぱい作戦」市町連携事業（予定を含む）

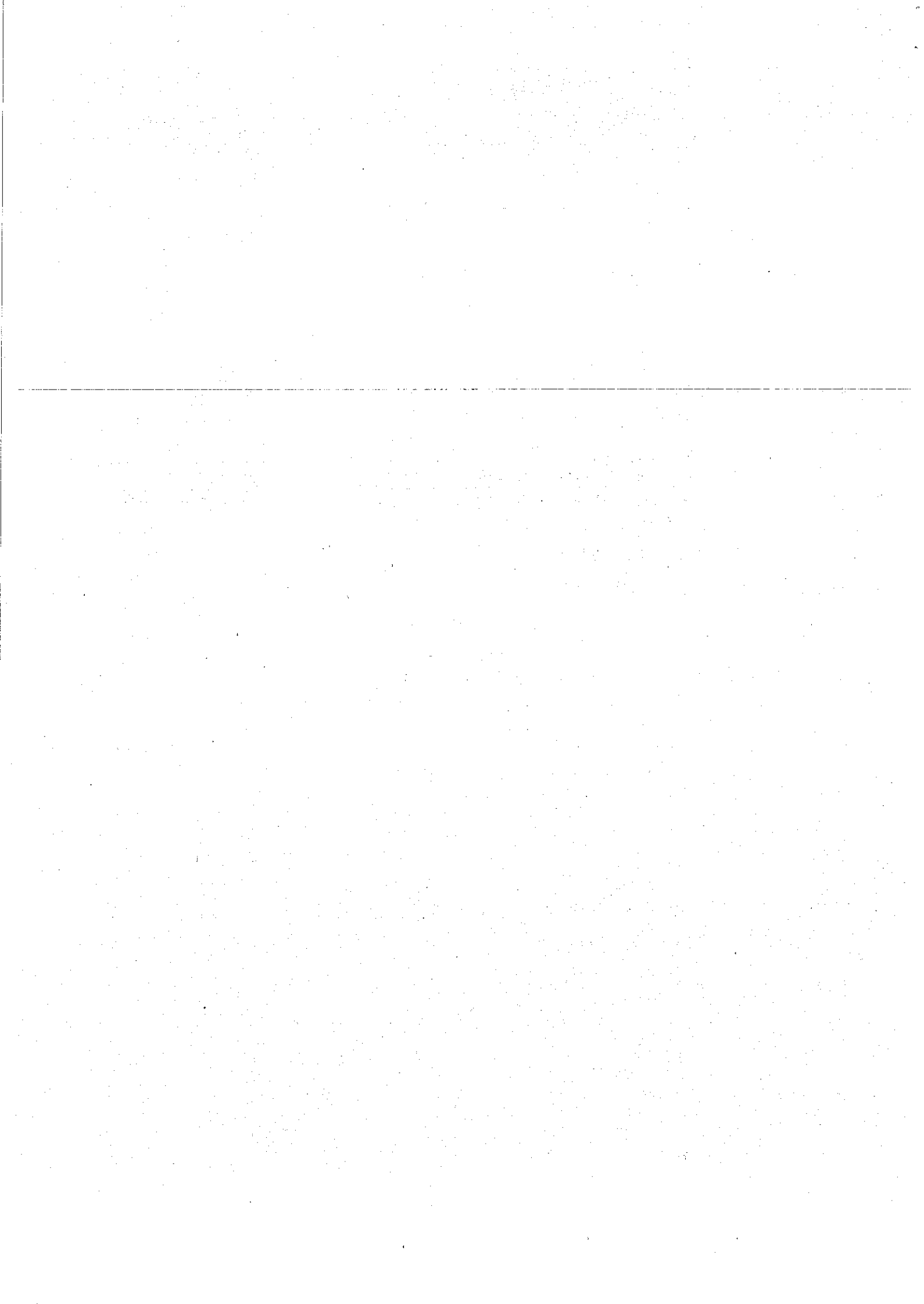
実施時期	市町	場所
4月上旬	津市	本庁及び各総合支所
4月中旬	津市	津なぎさまち内旅客船ターミナル周辺
4月下旬	津市	津市本庁舎、まん中広場、国道163号線沿い
4月中旬	四日市市	四日市市民公園「そらんぼ四日市」（四日市公害と環境未来館）
4月下旬	四日市市	四日市中央線他
4.9	伊勢市	宇治浦田町おほらいまち
4月中旬～5月末	伊勢市	河崎川の駅、倉田山公園、有緝小学校、宇治浦田町おほらいまち、鹿海町 祭典場、河崎川の駅、東大淀地内、宮後町地内、JR二見駅前、宮川2丁目周辺、うぐいす台入り口花壇、浜郷地区内、小俣町地内、坂社前
5.7	伊勢市	朝熊山麓公園花の広場
4.5	松阪市	松阪市役所本庁舎前
4月下旬	松阪市	各職場
3.5	桑名市	桑名駅等
4月上旬～5月中旬	鈴鹿市	旭が丘公民館
4月下旬	鈴鹿市	栄公民館、住吉公民館、神戸公民館、長太公民館、旭が丘公民館、白子公民館、鼓ヶ浦公民館、郡山公民館、愛宕公民館、近鉄鈴鹿市駅
4.28	鈴鹿市	一ノ宮公民館
4月下旬～5月上旬	鈴鹿市	近鉄鈴鹿市駅、鈴鹿市立体育館
5月下旬	鈴鹿市	井田川公民館
5.27	鈴鹿市	清和公民館
4月	名張市	HOS名張アリーナ、武道交流館いきいき、上下水道部、一ノ井児童館・一ノ井老人福祉センター、一ノ井市民センター

4.6	尾鷲市	尾鷲市役所前
4.24 (予定)	尾鷲市	紀望通り、銀杏通り、北川右岸
5月上旬	尾鷲市	坂場銀杏町線沿い
4.5	亀山市	亀山、白川、川崎、野登地区
4.6	亀山市	関宿
4月上旬	亀山市	市道西町落針線、市道野村線、市道東丸3号線
4.11	亀山市	川崎小学校内
4.15	亀山市	白川小学校、白川北地区コミュニティ帯
4.22	亀山市	サンシャインパーク、ドライブイン安全文化村、太岡寺畷
4月下旬	亀山市	各中学校
4.9	鳥羽市	鳥羽駅周辺
4月中旬	鳥羽市	安楽島町地内
4月下旬	鳥羽市	近鉄中之郷駅前
4.1~5.5	熊野市	熊野市内一円協力家庭等
4.16	熊野市	熊野市井戸町
4月中旬	いなべ市	員弁庁舎
4月下旬~5月上旬	いなべ市	員弁町岡丁田
3.27	志摩市	道の駅「伊勢志摩」
4.9	志摩市	志摩市役所・鵜方駅
4月中旬以降	志摩市	浜島町内、大王町内、志摩町内、阿児町内、磯部町内
4.23	志摩市	道の駅「伊勢志摩」
4月	伊賀市	本庁・各支所等
5.8	木曾岬町	木曾岬町役場
4月	東員町	東員町内
4月下旬~5月	菰野町	町内一円、保育所、幼稚園、小中学校、庁舎
4月	朝日町	各自治区
4月~5月	川越町	庁舎
4月~6月	川越町	川越富洲原駅前広場
4月	多気町	五桂池ふるさと村、ふれあいの館、元丈の館
4.17	明和町	さいくう平安の杜
4月下旬	大台町	上真手地内、神瀬地内、役場周辺、柳原地内、千代地内、上三瀬地内
4月	玉城町	玉城町内
4月	度会町	度会町内
4.14以降	大紀町	各小中学校、各保育園、本庁及び支所等、各地域
4月中旬	南伊勢町	南勢庁舎・南島庁舎等の公共施設
4月下旬	南伊勢町	町内各施設等
4月中下旬	紀北町	紀北町役場
4月中旬	御浜町	御浜町役場、県道(御浜紀和線)沿い
5月	紀宝町	国道42号沿い花壇

(2) 県事業 (ポスター・のぼり等でPR)

月日	行事名	場所	市町
3.26~27	モンベル・フレンドフェア大阪	大阪府大阪市 インテックス大阪	農林水産部 農業基盤整備課
3.26 ~3.31	日本忍者協議会忍者PRイベント	三重テラス 日本橋桜フェスティバル	雇用経済部観光局 観光誘客課
3.26	みえの文化セミナー 「斎宮と平安文化入門」	近鉄文化サロン阿倍野	環境生活部文化振興課 (斎宮歴史博物館)
4.16~17	ディズニー・ライブ! ミッキーのミュージックパーティー!! (5公演)	三重県文化会館 (大ホール)	環境生活部文化振興課 (文化会館)
4.16	県民の日特別イベント カプラ体験教室	みえこどもの城 カプラルーム	健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課
4.16	平成28年県民の日記念事業	MieMu (総合博物館) 他	総務部総務課
4.17	みえのまなび講演会2016 「映画を作りながら考えたこと」 & 「かぐや姫の物語」アニメーション映画監督 高畑 勲	三重県文化会館 (中ホール)	環境生活部文化振興課 (生涯学習センター)

(以上)



「県民の日」記念事業



第3回



伊勢志摩サミットフォーラム

【日時】平成28年4月16日(土)13:00開演／12:00開場

【場所】三重県総合文化センター 中ホール
(三重県津市一身田上津部田1234)

【内容】13:00～13:10 挨拶(鈴木英敬伊勢志摩サミット三重県民会議会長(三重県知事)、前葉泰幸津市長)
13:10～14:10 講演
14:30～15:45 トークセッション

定員650名
事前申込制
先着順
入場無料

参加者全員に、サミットにちなんだステキなお土産をプレゼント♪

<講演> 「英国人アナリスト、三重の未来を語る」(仮題)

株式会社 小西美術工藝社 代表取締役社長

講師 **デービッド・アトキンソンさん**



イギリス生まれ。オックスフォード大学卒。大手投資グループ“ゴールドマン・サックス”を42歳で退職。2011年、文化財や神社仏閣の修復を手掛ける小西美術工藝社の社長に就任。茶道をたしなむなど、日本の文化に造詣が深い。アナリストならではの客観的かつ鋭い分析力を持ち、著書に「新・観光立国論」など。

<トークセッション> 「世界とつながる、三重の未来」

○スピーカー



株式会社 宣伝会議 取締役副社長・編集室長
田中里沙さん

三重県津市出身。広告会社を経て、宣伝会議に入社。1996年より現職。国の各種審議会委員のほか、三重県経営戦略会議委員などを歴任。テレビ情報番組のコメンテーターとしても活躍。



ノンフィクション作家
高野秀行さん

東京都八王子市出身。早稲田大学在学中から海外取材を積極的に行い、現場の声を拾う力に定評がある。著作『謎の独立国家ソマリランド』で第35回講談社ノンフィクション賞受賞。



東北大学大学院生
寺岡夕里さん

東京都出身。幼少期をタイで過ごすことで、貧困問題に興味を持ち、2009年ジュニア8サミットに日本代表として参加。東日本大震災をきっかけに東北大学へ進学し、国際交流活動を積極的に行う。現在はニュートリノ物理を研究。

株式会社 小西美術工藝社 代表取締役社長
デービッド・アトキンソンさん

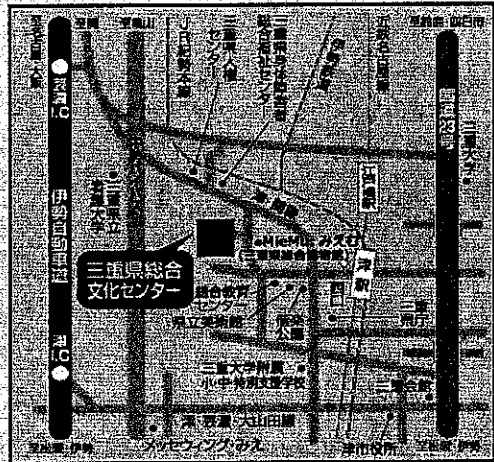
○コーディネーター
鈴木英敬 伊勢志摩サミット三重県民会議会長
(三重県知事)

伊勢志摩サミット・三重県 検索

◆会場アクセス◆

＜公共交通機関＞

バス停「津駅西口」から、バスで約5分。
 「総合文化センター行き・夢が丘団地行き」乗車、
 「総合文化センター前・総合文化センター」下車
 ※当日は、複数のイベントと重なり、駐車場の混雑が予想されますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。



◆お申し込み方法◆

(1) FAX

下欄に必要事項を記入の上、(059-253-5498)へFAX

(2) 申し込み専用ホームページ

- パソコン <http://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/dform.do?acs=sf3>
- 携帯電話 <http://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/lform.do?acs=sf3>
- スマートフォン <http://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/sform.do?acs=sf3>

【伊勢志摩サミット三重県民会議のホームページから、リンクがあります】

応募締切 平成28年4月5日(火) 24:00 (先着順)

整理券を発送しますので、当日は整理券をご持参ください。

お問い合わせ先
 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
 津市栄町2-380 HOWAビル津4F 電話 059-253-5496

詳しくは、こちらで検索！

伊勢志摩サミット・三重県 検索

住所*	〒		
ふりがな※ 氏名		電話番号※	
メールアドレス		FAX番号	
団体・法人名		役職・部署名	
手話通訳・要約筆記	利用します	車いす席	利用します
乳幼児保育 サービス	利用します	氏名・ふりがな	
		年齢(月齢)	

ご記入いただいた個人情報は、このイベントに関してのみ使用し、それ以外の目的で使用いたしません。
 ※住所、氏名、ふりがな、電話番号は、必ずお書きください。
 手話通訳や車いす席、乳幼児保育サービスの利用を希望される方は、「利用します」に○を付けてください。
 乳幼児保育サービスを希望される場合は、お子様の氏名・ふりがな・年齢(月齢)も合わせて記入してください。

三重県情報館(仮称)について

1 国際メディアセンター(IMC)について

(1) 概要

伊勢志摩サミットを取材する報道関係者のための施設である国際メディアセンター(IMC)は、三重県営サンアリーナに日本政府が設置し、サンアリーナの既存施設とサンアリーナ近くに建設される仮設施設で構成されます。

(2) 開設期間(三重県の想定)

平成28年5月25日～5月28日(24日はプレオープン日)

※北海道洞爺湖サミットの事例を参考に想定。

2 三重県情報館(仮称)の概要

(1) 目的

IMC内の広報スペースの一部を使用して、国内外の数千人の報道関係者等を対象に、三重県の宝や誇り、三重県が持つ日本の素晴らしさを発信するための拠点として三重県情報館(仮称)を設置します。

(2) コンセプト

①基本コンセプト 「伝統と革新～“和”の精神～」

三重の歴史、多様で豊かな文化、自然、食、産業等における「伝統と革新」を「和」の精神という切り口で捉え、「静と動」の織り成す三重の多様な魅力を発信する。

②展示コンセプト

「伝統」を守りながらも「革新」を積み重ねることで進化してきた「三重」の「姿」「技」「食」一繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「常若」の思想

(3) コンテンツ選定

①選定委員会の設置

公平かつ透明性のある展示コンテンツ選定を行うにあたり、コンテンツ選定委員会(委員長 西村訓弘三重大学副学長)を県民会議事業推進部会の下に設置しました。議論の内容等は以下の通りです。

	議論の内容
第1回 (1月19日)	「展示コンセプト」「募集・照会要領」「選定要領」等を決定
第2回 (2月17日)	「応募・推薦コンテンツ」のランク付(Aランク「ぜひ展示したい」、Bランク「できれば展示したい」、Cランク「どちらでもよい」)
第3回 (3月9日)	展示コンテンツを選定、展示企画・方法・ストーリーに関する意見交換

②コンテンツの応募・推薦数及び選定結果

1月28日(木)から2月9日(火)にかけて、以下のカテゴリでコンテンツを募集・照会したところ、181件の応募・推薦があり、3月9日(水)の第3回コンテンツ選定委員会で68件が選定されました。

なお、外務省等との調整もあることから、展示コンテンツを含めた三重県情報館(仮称)の内容についての公表は未定です。

カテゴリ	募集・照会先	応募・推薦数		選定数	
自然	県、市町	11	181	4	68
歴史・文化	県、市町	32		9	
伝統工芸	県	38		14	
先端技術	県、企業・団体	58(うち県推薦2)		19	
食	県	42		22	

(4) 今後の予定

三重県情報館(仮称)と政府広報スペースを含むIMC内全体が調和のとれたものとなるよう、外務省と密に調整をしていきます。

今後、展示企画書の作成、実施設計の完了、展示コンテンツの収集、現場施工等を経て、4月下旬までに運営計画を作成し、5月中旬からスタッフについてトレーニングを開始し、三重県情報館(仮称)のオープンに備えます。

平成28年3月16日
事業推進課

海外プレスツアーの取材に基づく報道状況と
参加者からの意見、今後の予定等について

1. 外務省主催分

- (1) ASEANプレスツアー(8/27-28) 取材地: 四日市市、菰野町
 - ・デイリー・ニュース紙(タイ)・・・「地域と産業が共生する三重」
 - ・ボルネオ・ブレティン紙(ブルネイ)・・・「産業と環境にやさしい四日市」
- (2) 中東プレスツアー(8/30-31) 取材地: 伊勢市、鳥羽市
 - ・記事掲載確認できず
- (3) ベルギープレスツアー(10/30-31) 取材地: 伊勢市、鳥羽市
 - ・モルゲン誌・・・「現代的な国に伝統的な精神」
 - ・ヘット・ヴァカンティサロン誌・・・「日本が熱い」
- (4) イスラエルプレスツアー(11/14-15) 取材地: 鳥羽市、多気町、大紀町
 - ・ハアレツ紙・・・「日本は乗り越えるために支援を得ることを学んでいる」
 - ・ハアレツ紙・・・「魚と人々について」
- (5) クウェートプレスツアー(1/30-31) 取材地: 鳥羽市、志摩市
 - ・アル・アンバー紙・・・「すばらしい国日本」
 - ・クウェートタイムズ紙(アル・アンバー紙と同内容)

2. 県民会議分

- (1) 第一回プレスツアー(12/7-8) 取材地: 伊賀市、名張市、松阪市
 - ・金融時報(中国)・・・「日本の地域活性化には長い道のり」
 - ・人民日報(中国)・・・「伊賀流忍者博物館を訪ねて」
 - ・亜太日報(中国)・・・「日本の近代史の裏に“隠密の力”」
 - ・法制日報(中国)・・・「日本は数多くの政策により農村経済の発展を支援」
 - ・SBS TV(韓国)・・・「「忍者」を前面に出し観光客を誘致 8年ぶりに韓国を追い越す」
 - ・YTN TV(韓国)・・・「観光大国を狙う日本「忍者を押し出せ」」
 - ・ロシア24TV(ロシア)・・・「今日の忍者」
 - ・ファーマーズウィークリー(ニュージーランド)・・・「六次産業化で更に儲かる農家」
 - ・ノイエ・チュルヒャー・ツァイトウング(スイス)・・・「野心的な日本の農家」
 - ・フランクフルター・アルゲマイネ・ツァイトウング(ドイツ)・・・同上

3. プレスツアー参加者からの意見

(1) プレスツアー自体への意見

① 良かった点

- ・取材現場の方も含め非常に協力的で取材しやすかった。
- ・取材先の取り組みに圧倒された。非常に興味深かった。
- ・一回の報道で使い切れないほどいい素材が揃った。
- ・(取材をした)日本のメディアは礼儀正しく、フレンドリーだった。
- ・地元食材を使い、地域の特色を出した料理は期待以上だった。

② 悪かった点

- ・行程がタイトすぎる。(取材先が多い、滞在時間が短すぎる)
- ・参加者に対して、場所も含めた事前情報が欲しい。
- ・インタビュー時間が短すぎる。もっとインタビューしたかった。
- ・一部は内容に乏しく記事化できない取材先があった。
- ・一部の取材先では、説明者が要点をうまく説明できていなかった。
- ・国内メディアが海外メディアを取材することに個人的には反対である。

(2) 海外への情報発信に関する意見

① SNS

- ・県のインスタグラムがないのが残念である。海外発信として必須のメディアである。
- ・SNSでフェースブックを多用しているが、世界の主流はツイッターである。
- ・ツイッターからPCサイトの英文ページへのリンクが必要であるが、ほとんどリンクされていない。

② ホームページ

- ・欧米の人は、個人や家族で来る人が多いが、現在の情報では、空港を降りてから目的地にたどり着くまで、どうやって行ったらいいかがわからない。(詳しいルート・マップなどが欲しい。)
- ・日本=三重といった視点で情報発信すべきである。(三重が日本のどこにあるのかすぐわからない)

③ アイデア

- ・景色も食も精神性も素晴らしいが、もっと情報発信をしてほしい。
- ・欧米向けに発信するために、海外の人で発信力のある人と契約して発信してはどうかと思う。
- ・伊勢神宮は、外国人にとって非常にわかりにくいので、イメージで伝えいった方がよい。

4. プレスツアーを実施するにあたっての留意点

(1) 準備段階

- ・日本に常駐する特派員は、政治・経済を取材対象としていることが多い。観光・食・料理・文化だけではなかなか記事として読まれないため、取材

されないことが多い。〔経済課題等（環境、少子高齢化等）の切り口から取材先を選定していく必要がある。〕

- ・取材先は、わざわざ取材に来る時間と労力をかけてまで来なくなるレベルの取組内容が必要である。（取材先候補の情報は、日頃から収集しておく必要がある。）
- ・食等を取材してもらおう場合は、背景からの一貫したストーリーが必要となることが多い。（難易度はかなり高い。）
- ・取材先とは、目的・テーマ等を共有し、プレゼン内容を協働して磨き上げておく必要がある。
- ・行程は、十分余裕を持たせるとともに、質問時間を十分確保することが必要である。
- ・海外プレスの募集は、フォーリンプレスセンターを利用すると外国人記者証を持つ人に情報が配信されるので、個別にアプローチするよりも効率的である。

（2）実施段階

- ・海外プレスへの説明者が、事前の打ち合わせ内容を理解していないと事務局が判断した時は、適宜フォローすることが有効である。
- ・取材先が説明に夢中になっているときは、うまくファシリテートして、事務局が質問タイム等をつくることも重要である。
- ・フィードバックレポートを受け取るまで1か月以上時間がかかることから、事務局から記者に対して、行程中を通して感想や改善点をできる限り収集しておくことが必要になる。（話す中で、ツアーを企画するうえでのヒントも多く得られる。）

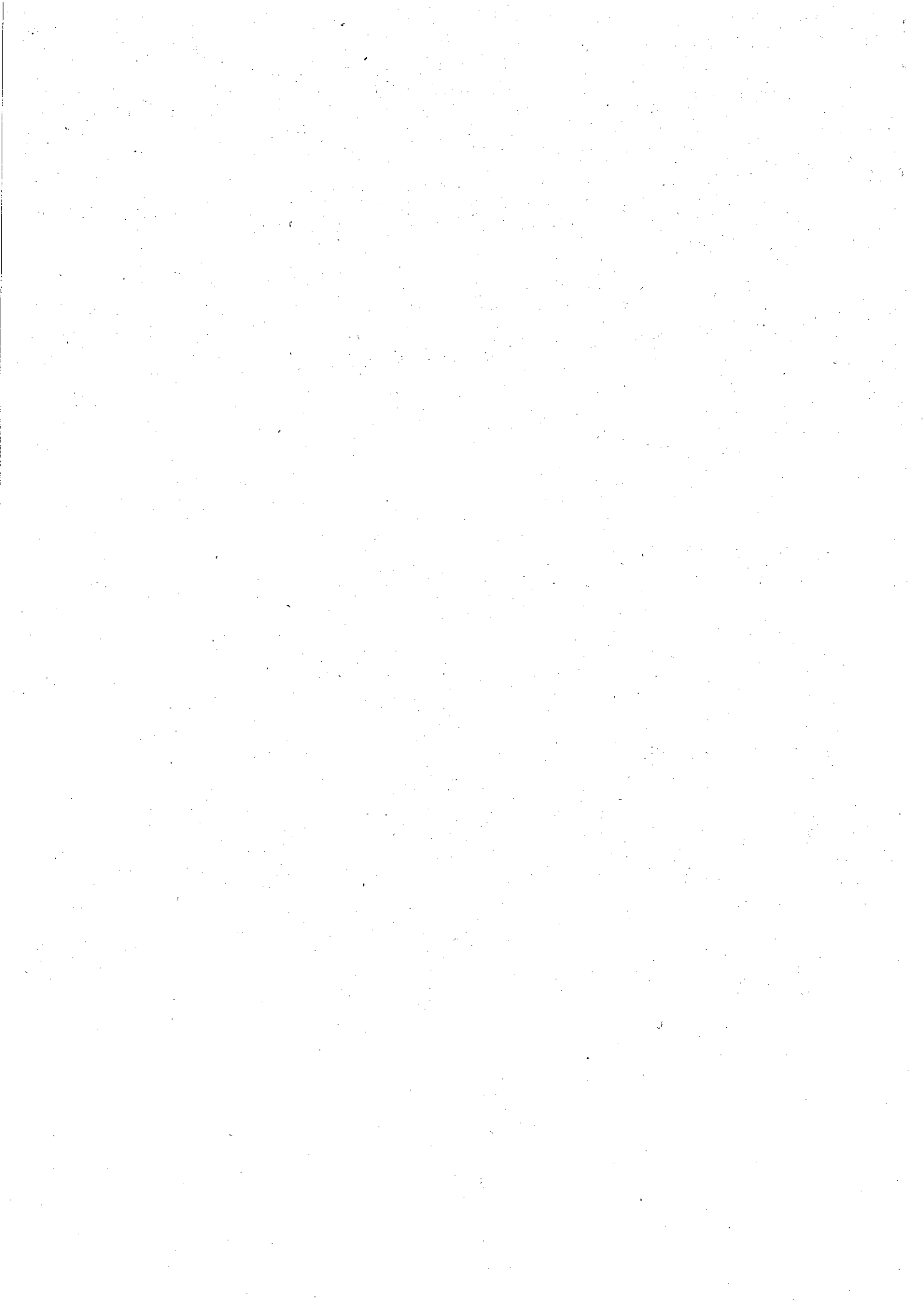
（3）改善段階

- ・記者からの意見を踏まえ、次回以降のプレスツアーに反映できることは、改善し、同時に市町や取材先との情報共有が必要である。（その際には、事務局が市町や取材先と情報共有する場合、対面で行うことが望ましい。）
- ・特に今後、インバウドの増加につながる情報発信は、各部・各課で共有し、横断的に取り組む必要がある。（各部・各課で個別に主催するツアーにも相互に参加するのも良い手法である。）

5. 今後の海外プレスツアー等について

今後、著名シェフ及び海外メディアを招へいたしたプレスツアー（3月28日～30日）、関西地域振興財団主催プレスツアー（4月4、5日）、伊勢志摩サミット三重県民会議第三回プレスツアー（5月）を実施する予定です。

なお、プレスツアーを実施していくなかで海外記者からいただいた意見を踏まえ、取材時間を長く取るなど改善に取り組んでいます。



伊勢志摩サミット三重県民会議主催 三重県プレスツアー
(2015年12月7-8日実施)
報道

2016年2月22日
公益財団法人フォーリン・プレスセンター

報道件数(2016年2月22日現在)

計17件、世界6か国/地域における報道

- ・プレスツアー参加者:11名
 - ・プレスツアーに参加した全てのメディアが報道。
- ※転載は記載しておりません

金融時報(中国/新聞)

1. 金融時報(紙面)

- ・2015年12月17日
- ・タイトル(仮訳):日本の地域活性化には長い道のり
- ・タイトル:日本地方振興任重道远
- ・内容:知事会見、アグリ農園
- ・中国語

2. 金融時報 オンライン版(Web)

- ・同上
- http://www.financialnews.com.cn/gj/hqcj/201512/t20151217_89105.html

人民日報(中国/新聞)

3. 人民日報 オンライン版 (Web)

- ・2016年2月1日
- ・タイトル(仮訳):伊賀流忍者博物館を訪ねて
- ・タイトル:探访伊賀流忍者博物館
- ・内容:伊賀流忍者博物館
- ・中国語

<http://world.people.com.cn/n1/2016/0201/c1002-28102222.html>

新華社(中国/通信社)

4. 亜太日報 オンライン版 (Web)

- ・2015年12月10日
 - ・タイトル(仮訳): 日本近代史の裏に“隠密の力”
 - ・タイトル: 推動日本近代歴史前進的“隱秘力量”
 - ・内容: 伊賀流忍者博物館
 - ・中国語
- <http://zh.apdnews.com/asia/yanguandongying/299292.html>

法制日報(中国/新聞)

5. 法制日報(紙面)

- ・2015年12月15日
- ・タイトル(仮訳): 日本は数多くの政策により、農村經濟の發展を支援
- ・タイトル: 日多项法规助力农村经济发展
- ・内容: アグリー農園、木の子の里・錦生生産センター、モクモク手づくりファーム
- ・中国語

6. 法制日報 オンライン版(Web)

- ・同上
- <http://epaper.legaldaily.com.cn/fzrb/content/20151215/Article09005GN.htm>

7. 法制日報 オンライン版(Web)※国際ニュース

- ・同上
- http://www.legaldaily.com.cn/international/content/2015-12/15/content_6399661.htm?node=76671

SBS(韓国/テレビ)

8. SBS 動画(TV 放送)

- ・2015年12月13日
- ・タイトル(仮訳): 日本「忍者」を前面に出し観光客を誘致…8年ぶりに韓国を追い越す
- ・タイトル: 日 '닌자' 앞세워 관광객 유혹…8년 만에 한국 추월
- ・内容: 伊賀流忍者博物館
- ・韓国語

9. SBS オンライン版 動画(Web)

- ・同上

http://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1003312176

YTN(韓国/テレビ)

10. YTN 動画(TV 放送)

- ・2015年12月12日
- ・タイトル(仮訳):観光大国を狙う日本「忍者を押し出せ」
- ・タイトル:관광대국 노리는 日 “닌자를 띄워라”
- ・内容:伊賀流忍者博物館
- ・韓国語

11. YTN オンライン版 動画(Web)

- ・同上

http://www.ytn.co.kr/search/search_view.php?s_mod=0104&key=20151212215208480

4

ロシア24TV(ロシア/テレビ)

12. ロシア24TV(放映)

- ・2016年1月22日
- ・タイトル(仮訳):今日の忍者
- ・タイトル:Ниндзя сегодня
- ・内容:知事インタビュー、伊賀流忍者博物館
- ・ロシア語

13. ロシア24TV オンライン版(Web)

- ・同上

http://www.vesti.ru/videos/show/vid/668724/cid/3881/#/video/https%3A%2F%2Fplayer.vgtrk.com%2Fiframe%2Fvideo%2Fid%2F1473368%2Fstart_zoom%2Ftrue%2FshowZoomBtn%2Ffalse%2Fsid%2Fvesti%2FisPlay%2Ftrue%2F%3Facc_video_id%3D668724

※44分ごろから

Farmers Weekly(ニュージーランド/新聞)

14. Farmers Weekly (紙面)

- ・2016年1月25日
- ・タイトル(仮訳):六次産業化で更に儲かる農家
- ・タイトル:Sixth industry gives growers more
- ・内容:木の子の里・錦生生産センター、知事、うれし野アグリ、モクモク手づくりファーム

15. Farmers Weekly (Web)

・同上

<http://farmersweekly.co.nz/article/sixth-industry-gives-growers-more?p=1>

Frankfurter Allgemeine Zeitung(ドイツ/新聞)

16. Frankfurter Allgemeine Zeitung(紙面)

・2016年1月6日

・タイトル(仮訳):野心的な日本の農家

・タイトル:Der Erfolgshunger der japanischen Landwirte

・内容:モクモク手づくりファーム、アグリー農園、うれし野アグリ、

・ドイツ語

Neue Zürcher Zeitung(スイス/新聞)

17. Neue Zürcher Zeitung(WEB)

・2016年2月10日

・タイトル(仮訳):野心的な日本の農家

・タイトル:Der Erfolgshunger der japanischen Landwirte

・内容:モクモク手づくりファーム、アグリー農園、うれし野アグリ、

・ドイツ語

<http://www.nzz.ch/wirtschaft/wirtschaftspolitik/in-japan-werden-traeume-wahr-1.186>

[92682](#)

(了)

平成28年3月16日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、県産食材を活用した安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供することを目的とする。

2 取組内容

(1) 業務内容

弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

(3) 整備する供給体制

- ①屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要（以下、「大規模需要」）への対応〔供給期間：3月下旬～5月下旬〕
- ②屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要（以下、「小規模需要」）への対応〔供給期間：主に5月中旬～下旬〕

3 大規模需要への対応について

(1) 実施事業者の選定

企画提案コンペにより以下のとおり決定しました。

受託事業者（平成28年1月25日公表）

- ・A地区：志摩市（最大想定供給数 21,000 個/日）
株式会社ローソンを代表とする4社による共同事業体
構成員：オーケーズデリカ株式会社（県内弁当製造事業者）、株式会社キャリアカーサービス（県内運送事業者）ほか
- ・B地区：伊勢市、鳥羽市、津市ほか（最大想定供給数 5,000 個/日）
株式会社セブン・イレブン・ジャパンを代表とする9社による共同事業体
構成員：プレミアムキッチン株式会社（県内弁当製造事業者）ほか

(2) 県内事業者の参画

事業者選定にあたっては、仕様書に、県内弁当製造事業者を一社以上含めることを参加資格にするとともに、配送事業者等についても可能な限り県内事業者を多く参画させるよう規定し、その参画度合を選定の評価基準の一つとすることで、県内事業者の参画を確保しました。また、より多くの県内事業者の参画を図るため弁当の配送場所を2地区に分けることとしました。

(3) 食品衛生管理体制

万全の食品衛生管理体制が確保できることを最重要方針とし、弁当の製造過程において、HACCP及び大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を実施するとともに、提供する弁当について、屋外で保管されることを想定

し、三重県が定める食品の衛生管理指標の目標値の達成及び異物混入対策として金属探知機での検査等を求めています。

供給開始後も、月2回程度の監視指導を実施します。

(4) 県産食材の活用

県産米を使用するとともに、その他の県産食材についても、可能な限り使用に努めるよう企画提案コンペの仕様書に規定しました。今後、県農林水産部と連携して県民会議の方から食材及びメニューの提案を行うことで、企画提案の内容に止めることなく、県産食材の活用促進に努めます。

(5) 弁当供給期間

平成28年3月下旬から5月28日(予定)

4 小規模需要への対応について

(1) 方針

比較的小規模かつ短期・不定期な弁当需要に対しては、地元の小規模な弁当製造事業者による供給が行えるよう、需要が発生するそれぞれの地域の商工団体等との連携・協力を基に、両者のマッチングを促進していきます。

(2) 弁当需要量の把握

宿泊予約センターと連携し、食事の提供に課題のある宿泊施設について情報共有を図るとともに、通信・電力等の支援事業者に聞き取りを行い、期間・地区ごとに発生する弁当需要量の把握に努めます。

(3) 弁当供給事業者の把握

各地域の商工団体等を通じて、弁当供給の意向や適性のある事業者及び供給可能な数量を把握します。弁当供給にあたっては、所管保健所の協力により、事業者の食品衛生状況の確認を行います。

(4) マッチング

県民会議によるサミット開催支援の取組の中で得られる弁当の需要と供給に関する情報を相互に提供することでマッチングを行います。実際の受発注や精算業務は事業者間(もしくは供給側の取りまとめを行う商工団体等と需用側事業者間)で直接行います。

(5) 関係市の現状

ア 志摩市

志摩市商工会が中心となって、市内の弁当製造事業者による会を自主的に組織し、サミットにおける弁当供給のための準備に取り組んでいます。

①名称：志摩市弁当協力会

②設立日：平成28年2月19日(金)

③会員数：17事業者(全て志摩市内の弁当製造事業者)

④目的：志摩市内の弁当提供事業者の保護・育成と市内で開催される各種事業に対し必要な弁当を合理的かつ適正に納入すること

⑤弁当供給に向けた調整状況

サミット関係者に対して弁当の供給が行えるよう、期間、個数、配送場所、料金等について、調整を進めています。

⑥その他

- ・サミット限定の組織ではなく、サミット後も見据えた組織として設立されました。
- ・昨年12月には、設立準備会の事業として、衛生講習会を開催しています。

イ 伊勢市及び鳥羽市

伊勢市及び鳥羽市においては、商工会議所が中心となって、弁当供給業務を行う候補となる事業者の取りまとめを進めています。

(6) 今後のスケジュール

平成28年3月末	弁当需要量・弁当供給事業者の把握
	両者のマッチング
5月～	弁当供給

平成28年3月16日
伊勢志摩サミット推進局
総務課

伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体代表者での総理大臣官邸訪問について

1 要旨

伊勢志摩サミット及び10都市で開かれる関係閣僚会合の開催を前に、三重県知事はじめ関係閣僚会合開催自治体の代表者が総理大臣官邸を訪問しました。

2 内容

(1) 訪問日時 平成28年3月10日(木) 15時00分～15時15分

(2) 訪問先

安倍 晋三 内閣総理大臣
萩生田 光一 内閣官房副長官

(3) 参加者

三重県知事	鈴木 英敬	神戸市副市長	鳥居 聡
茨城県知事	橋本 昌	長野県産業労働部産業政策監	石原 秀樹
富山県知事	石井 隆一	仙台市総務局東京事務所長	遠藤 和夫
香川県知事	浜田 恵造	広島市東京事務所長	岩崎 学
新潟市長	篠田 昭		
倉敷市長	伊東 香織		
北九州市長	北橋 健治		

(4) 概要

○安倍総理

広島外相会合まで1カ月、サミット開催まで2ヶ月半となった。警備対策を含め、伊勢志摩サミット及び関係閣僚会合の準備に向けて引き続きしっかりと協力していきたい。また、これを機会に日本の素晴らしさ、各地域の良さを世界に向けて発信していきたい。

○鈴木知事

本日は各代表者の意気込みをお伝えするために訪問させていただいた。1ヶ月後の広島外相会合から始まるサミットイヤーを自治体間でも連携し、情報発信などによってこの千載一遇のチャンスをしっかり活かし地方創生にもつなげていきたい。また、テロ対策をはじめとした安全・安心の確保は最優先事項であり、情報交換も行いながら引き続き万全を期す。この表敬を機にさらに全力を挙げて取り組んでいく。

○各開催自治体の知事、市長から開催に向けた意気込みを発言(次ページ参照)。

<参考 各知事・市長の発言>

○橋本昌茨城県知事

つくばにはサイバーダインから JAXA まで、ロボットからロケットまであるので、日本の科学技術を世界に売り込んでいきたい。

○石井隆一富山県知事

富山県の環境に対する真剣な取組や日本の環境に対する姿勢をしっかりとアピールしていき、COP21 を受けた環境大臣会合を成功させたい。

○浜田恵造香川県知事

3年に1回開催される瀬戸内国際芸術祭と情報通信大臣会合でインバウンドを増やし、瀬戸内、香川の良さ、日本の良さをアピールしたい。

○篠田昭新潟市長

農業戦略特区に指定いただき、順調にプロジェクトが進んでいる。農業大臣会合の開催により、新潟の酒文化等喜んでいただけると自負しており、最大限頑張りたい。

○伊東香織倉敷市長

倉敷の伝統的建造物群保存地区の美観地区一帯で開催される。倉敷の教育と文化のまちづくりを発信していきたい。地元の小中学校の視察を通して日本の教育の良さをアピールしたい。

○北橋健治北九州市長

国家戦略特区に指定いただいている。スマートコミュニティ、水素社会創造事業という国、県と共に進めてきた先駆的な取組を世界に発信していきたい。

以上

伊勢志摩サミットにおける交通総量抑制対策の必要性

空港から会議場への移動はヘリコプターによる空路が想定
但し、

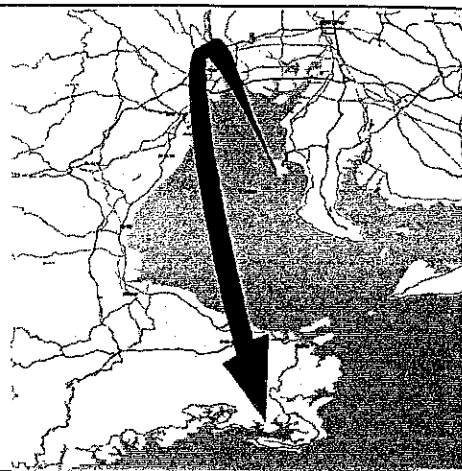
- 悪天候等により、空港から会議場への移動が困難
- ヘリポートから会議場までの移動 等



県内の高速道路及び伊勢志摩地域の道路等を利用することとなる。

※ この際、各国首脳等の移動に伴う

一時的な交通規制を実施



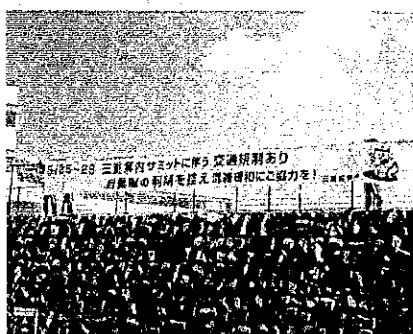
県内の高速道路は東西をつなぐ
物流の大動脈

主要道路において
常態的に渋滞が発生

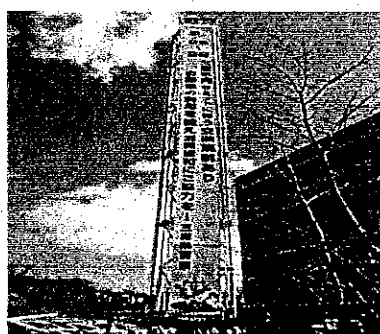
交通規制により更なる
交通渋滞発生のおそれ

交通規制に伴う一般交通に対する影響を最小限にとどめるために
交通総量抑制対策は必要不可欠

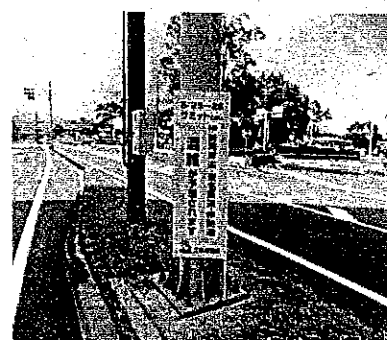
【交通総量抑制に向けた広報の実施（3月1日開始）】



横断幕



懸垂幕

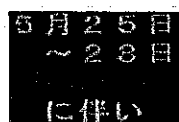


立て看板



交通情報板

ホームページ



県内
あり

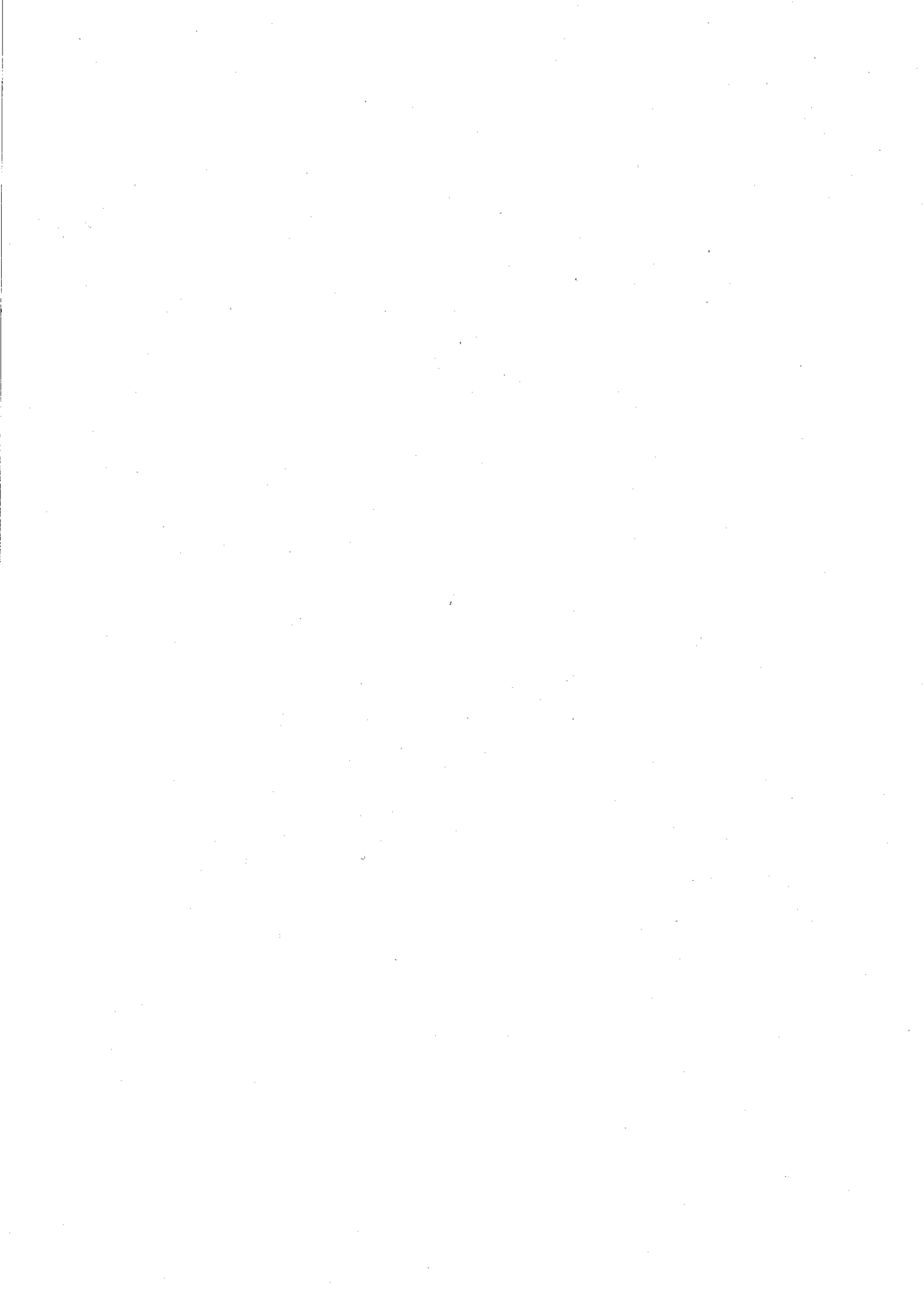
交通情報板

5月25日(水)から28日(土)にかけて、各国首脳の見物に伴い、伊勢志摩地域の道路や周辺河川等において、交通規制が予定されています。

- 公共交通機関の混雑
- マイカー利用の増加
- 伊勢志摩管内の交通渋滞

等について、ご理解とご協力をお願いいたします。





平成 28 年 3 月 16 日

協賛、応援、寄附の申込状況等について

協賛、応援、寄附の募集にかかる 3 月 13 日時点での申込状況は、下記のとおりです。

協 賛	応 援
110 件 うち登録 99 件	658 件 うち登録 617 件

※協賛の事業提案内容は、別添のとおりです。

寄 附		
合計		922 件 454,579,381 円
内 訳	法人	
	個人	一般
		(※)クラウドファンディング
	561 件 428,737,370 円	
	113 件 25,029,538 円	
	248 件 812,473 円	

※クラウドファンディングの活用終了について

個人からの寄附金募集にあたり、より広く広報し、多くの方からご支援をいただくため、昨年 12 月 16 日より活用を行ってきたクラウドファンディングは、2 月 29 日で募集を終了いたしました。

個人からの寄附金につきましては、ふるさと納税の仕組みにより、平成 28 年 5 月 31 日まで、引き続き募集しています。

※協賛の主な活用状況

事業	協賛内容
飯倉公館レセプション(H27.10.27)	新日本工業(株)：パンフレットケースを提供 (株)赤福：「赤福茶屋」を出展 松阪牛協議会：松阪牛を提供 森林組合おわせ：ヒノキ板を提供
開催 150 日前イベント(H27.12.27)	(株)貫じん堂/ウッドメイクキタムラ：フラッグスタンドを提供 三重県漁業協同組合連合会：まぐろ解体ショーの調理補助員を派遣 イオンリテール(株)：まぐろ解体ショーの調理補助員を派遣 (株)朝日屋：松阪牛を提供 JAグループ三重：伊勢のバラを提供 三重いちごブランド化推進協議会：「かおり野」いちごを提供

<p>第2回サミットフォーラム(H28.1.16)</p>	<p>学校法人鈴鹿医療科学大学：会場を無償貸与 コカ・コーライーストジャパン(株)：清涼飲料水を提供 第一工業製薬(株)/三菱鉛筆(株)：ボールペンを提供 草月会三重県支部：いけばなを提供</p>
<p>おもてなし大作戦キックオフイベント(H28.2.14)</p>	<p>三重トヨタ自動車(株)：ごみ袋を提供 日本たばこ産業(株)東海支社：スタンド灰皿を提供 JAグループ三重：伊勢茶ペットボトルを提供 アサヒ飲料(株)中部北陸支社：清涼飲料水を提供 (有)森と水を守る会：ミネラルウォーターを提供 コカ・コーライーストジャパン(株)：清涼飲料水を提供 井村屋グループ(株)：振る舞いぜんざいを提供</p>

協賛申込状況

H28.3.13 時点

伊勢志摩サミットにかかる協賛事業について、現時点での申込状況は、下記のとおりです。

- 〔備考〕・登録欄の「済」は登録済のもの、空欄は審査中のものです。
- ・公表欄の「○」は内容の公表に同意があるもの、「×」は公表を希望しないものです。

【協賛】

申請件数	110
うち登録件数	99

申込者一覧

番号	受付日	提案者名	提案内容	登録	公表
1	H27.8.28	三重トヨタ自動車株式会社	クリーンアップ運動へのごみ袋等提供他	済	○
2	H27.9.3	尾鷲名水株式会社	サミットの出席者、スタッフにミネラルウォーターを提供	済	○
3	H27.9.11	「小さな親切」運動三重県本部	ごみ袋3万枚(JT協賛)配布し小中学校、企業等とともに、県民会議と同一週に環境美化活動実施	済	○
4	H27.9.11	百五銀行「小さな親切」の会	百五銀行の行員3,000名がサミット開催の直前週に環境美化活動実施	済	○
5	H27.9.16	株式会社宝輪	HOWAビル津(県民会議事務局入居)の空いている立体駐車場を無償貸与	済	○
6	H27.9.18	株式会社アクアイグニス	県民会議が主催するイベント・各種レセプション等へ「伊勢海老パイ」を提供	済	○
7	H27.9.24	株式会社ビーイング	①プロジェクトマネジメントツール無償提供②コンサルサービスとソフト運用支援業務の無償提供	済	○
8	H27.9.25	-	-		○
9	H27.9.25	-	-		○
10	H27.9.25	-	-		○
11	H27.10.5	三重畜産有限公司	サミット関連事業へ牛肉、豚肉、加工品等を提供	済	○
12	H27.10.14	新日本工業株式会社	伊勢志摩サミットの情報誌、パンフレットを入れるケースを作成し提供	済	○
13	H27.10.16	東紀州ヒロメ養殖協議会	県民会議が主催するイベント・各種レセプション等へ東紀州の特産品「ヒロメ」を提供	済	○
14	H27.10.20	マックスバリュ中部株式会社	伊勢志摩サミット関連イベントを対象とした店頭催事スペースの無償貸与	済	○
15	H27.10.26	-	-	済	後日公表
16	H27.10.28	株式会社マルゴ水産	催事会場等へ三重県産活あさり、しじみ、はまぐりの提供	済	○
17	H27.10.30	萬古陶磁器振興協同組合連合会	三重県産の農水産品を扱う団体とコラボしながら萬古焼を提供	済	○
18	H27.10.30	日本たばこ産業株式会社 東海支社	観光、宿泊、警備、報道関係など、人が集まる場所へのスタンド灰皿の提供	済	○
19	H27.11.2	株式会社プラトンホテル	ミス・ユニバース三重ファイナリストによる「伊勢志摩サミット」応援大使	済	○
20	H27.11.2	学校法人鈴鹿医療科学大学	第2回伊勢志摩サミットフォーラム会場となる鈴鹿医療科学白子キャンパスを無償貸与	済	○
21	H27.11.5	大石 小石	サミット関連事業参加者へ本真珠のタイタックとカフセット提供	済	○
22	H27.11.5	黒瀬町自治会	第82回式年選宴にて使用した子供乗車車をレセプション会場等での展示のため貸与	済	○
23	H27.11.6	株式会社赤福	レセプション開催時の「赤福茶屋」出展	済	○
24	H27.11.6	松阪牛協議会	レセプション開催時の各種商品提供	済	○
25	H27.11.6	日本トランスシティ株式会社	外国語ボランティアの派遣(20~30人程度)	済	○
26	H27.11.10	マイスターコーティング鈴鹿店	県民会議が行うイベントのトイレなどをコーティングする技術を提供	済	○
27	H27.11.12	JAグループ三重	イベント・レセプション等へ伊勢茶ペットボトルを3,310本提供	済	○
28	H27.11.13	株式会社電通名鉄コミュニケーションズ	各種アイテムのデザインやイメージの統一化を図るため伊勢志摩サミット共通デザインを提供	済	○
29	H27.11.16	三重県生活衛生同業組合連合会	県民会議のクリーンアップ活動に参加(約100名規模)	済	○
30	H27.11.16	株式会社三重興農社	飾花用のプランターを150個程度提供	済	○
31	H27.11.17	アサヒ飲料株式会社 中部北陸支社	パーティ、レセプション、イベント等へ清涼飲料水を提供	済	○
32	H27.11.17	株式会社大洋工藝	イベント等でパネルなどを展示する際に必要な展示用ボードを無償提供	済	○
33	H27.11.20	おぼろ太丸株式会社	サミット関連事業の参加者へフェイスタオル500枚を提供	済	○
34	H27.12.1	四日市スーパービジョン	四日市駅前のスーパービジョンでサミット関連動画を放映	済	○
35	H27.12.2	NTN株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	複合型(風力・太陽光)の街路灯を10基提供	済	○
36	H27.12.8	森林組合おわせ	レセプション開催時のヒノキ板提供	済	○
37	H27.12.8	三重県森林組合連合会	カウントダウンボード(小)×1基、(大)×2基の提供	済	○
38	H27.12.8	有限会社森と水を守る会	各種会場等へ「森の番人」ペットボトル500ml×5,000本提供	済	○
39	H27.12.17	株式会社百五銀行	外国語ボランティアの派遣(10~20人程度)	済	○
40	H27.12.17	西川製菓「鈴鹿あられ」	イベント等へ「サミットあられ」を提供	済	○
41	H27.12.17	花の国づくり三重県協議会	花いっぱい運動に必要な講師役の派遣	済	○
42	H27.12.17	三重県花植木振興会	イベント会場等で植木を用いた飾花	済	○
43	H27.12.17	株式会社コミュニケーションサービス	フリーマガジン「みえなびプラス」へサミット関連情報を掲載	済	○
44	H27.12.17	株式会社保田商店	ジュニアサミット会場へ「桑名もち小麦」のお菓子提供	済	○
45	H27.12.17	株式会社貫じん堂ノウッドメイクタムラ	開催記念フラッグスタンドの提供	済	○
46	H27.12.17	株式会社サミカワ	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
47	H27.12.17	株式会社百五銀行	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
48	H27.12.17	イオングループ	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
49	H27.12.17	株式会社第三銀行	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
50	H27.12.17	株式会社トーエネック 三重支店	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
51	H27.12.17	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	県民会議公式ポスター第3弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
52	H27.12.18	桑名の千羽鶴保存会	桑名市無形文化財「桑名の千羽鶴」装飾置物をレセプション会場等での展示用として貸与	済	○
53	H27.12.21	NTN株式会社 伊勢志摩サミット応援プロジェクト	ジュニア・サミットin三重開催のラッピングを施したEV車両を3台貸与	済	○
54	H27.12.21	三重県漁業協同組合連合会	伊勢志摩サミット150日前記念イベントにおけるまぐろ解体ショーに調理補助員や販促物の貸与	済	○
55	H27.12.21	株式会社朝日屋	伊勢志摩サミット150日前イベントにおける試食会に「ももみや号」精肉を無償提供	済	○
56	H27.12.28	イオンモール株式会社	県民会議が実施するイベントスペースの無償貸与	済	○

番号	受付日	提案者名	提案内容	登録	公表
57	H28.1.5	株式会社FIXER	県民会議HPの開発と提供	済	○
58	H28.1.5	井村屋グループ株式会社	井村屋スポーツようかん50,000本提供	済	○
59	H28.1.5	コカ・コーライーストジャパン株式会社	コカ・コーラ製品4,800本提供	済	○
60	H28.1.5	-	-	済	×
61	H28.1.5	JAグループ三重	伊勢志摩サミット150日前イベントにおける来場者へ伊勢のバラを提供	済	○
62	H28.1.7	イオンリテール株式会社	伊勢志摩サミット150日前記念イベントにおけるまぐろの解体時に必要な技能を有する職員の派遣	済	○
63	H28.1.12	-	-		○
64	H28.1.12	井村屋グループ株式会社	県民会議が実施するイベント等へ振る舞いぜんざい30,000食分	済	○
65	H28.1.13	株式会社エルテス	サミット開催前後の「三重の発信」に関するネット上の評判分析	済	○
66	H28.1.13	-	-		○
67	H28.1.13	株式会社エルテス	サミット開催期間中のネット上のリスク情報収集	済	○
68	H28.1.18	創作工房ネオ	県内産の間伐材で作ったエコ箸1,000膳協賛	済	○
69	H28.1.18	-	-	済	×
70	H28.1.22	サンヨー食品株式会社	伊勢志摩サミット開催記念 三重亀山ラーメン7,777個協賛	済	○
71	H28.1.25	株式会社ナミカワ	県民会議第3弾ポスターB1、B2サイズ至急分の印刷	済	○
72	H28.1.25	三菱鉛筆株式会社/第一工業製薬株式会社	インクにセルロースナノファイバーを使用したボールペンを7,000セット協賛	済	○
73	H28.1.25	住友電装株式会社	外国語ボランティアの派遣(10人程度)	済	○
74	H28.1.25	全日本空輸株式会社 名古屋支店	機内誌広告枠、機内VTR枠の無償提供	済	○
75	H28.1.25	株式会社伊勢・安土桃山文化村	無料招待券5,000枚提供	済	○
76	H28.1.25	亀山製絲株式会社	ナノファイバーマスク10,000枚協賛	済	○
77	H28.1.26	-	-	済	×
78	H28.2.1	三重いちごブランド化推進協議会	150日前イベントで来場者プレゼントして「かおり野いちごを提供	済	○
79	H28.2.1	草月会三重県支部	第2回伊勢志摩サミットフォーラム会場にいけばなの提供	済	○
80	H28.2.1	-	-		×
81	H28.2.3	株式会社貫じん堂/ウッドメイクキタムラ	開催記念フラッグスタンドの提供(8か国バージョン)	済	○
82	H28.2.9	-	-	済	後日公表
83	H28.2.9	パナソニックエコシステムズ株式会社/新日本工業株式会社	空間清浄機「ジアイノ」2台協賛	済	○
84	H28.2.9	アドアムニティ合同会社/株式会社藤波タオルサービス	伊勢木綿の手ぬぐいおしぼり(木箱つき)300個協賛	済	○
85	H28.2.9	中部電力株式会社 三重支店	県民会議のクリーンアップ活動に同調した管内事業場周辺の清掃活動	済	○
86	H28.2.9	イオンリテール株式会社 東海・長野カンパニー	県民会議のクリーンアップ活動に同調したクリーン活動の実施	済	○
87	H28.2.10	-	-	済	×
88	H28.2.15	一般社団法人三重県安全運転管理協議会	機関紙「みえANKAN」表紙面の提供	済	○
89	H28.2.15	株式会社三重銀行	県民会議のクリーンアップ活動に同調した清掃活動	済	○
90	H28.2.15	株式会社第三銀行	県民会議のクリーンアップ活動に同調した清掃活動	済	○
91	H28.2.24	JAグループ三重	第9回美し国三重市町対抗駅伝における県民会議主催PRブースへの三重県産農畜産物の提供	済	○
92	H28.3.1	酔月陶苑(清水 酔月)	手づくりによる酒盃を1,000個協賛	済	○
93	H28.3.1	松阪漁業協同組合	乾燥青さのりを700個協賛	済	○
94	H28.3.1	株式会社稲藤	「海女うちわ」をうちわ箱に入れて5箱提供	済	○
95	H28.3.3	三重交通グループホールディングス株式会社	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
96	H28.3.3	株式会社三菱東京UFJ銀行	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
97	H28.3.3	株式会社第三銀行	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
98	H28.3.3	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
99	H28.3.3	株式会社百五銀行	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
100	H28.3.3	イオンリテール株式会社 東海・長野カンパニー	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
101	H28.3.3	JAグループ三重	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
102	H28.3.3	株式会社三重銀行	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
103	H28.3.3	日本通運株式会社三重支店	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
104	H28.3.3	明治安田生命保険相互会社	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
105	H28.3.3	東京海上日動火災保険株式会社	県民会議公式ポスター第4弾への社名表記を前提とした協賛事業	済	○
106	H28.3.8	-	-		○
107	H28.3.8	-	-		○
108	H28.3.8	-	-		○
109	H28.3.8	-	-		○
110	H28.3.8	-	-		○
111					
112					
113					
114					
115					
116					
117					
118					
119					
120					



平成 28 年 3 月 16 日
伊勢志摩サミット推進局
サミット総務課

現地事務所の設置について

伊勢志摩サミット推進局においては、サミット開催直前及び開催期間中における現地対応等のため、以下のとおり現地事務所を設置することを検討しています。

1. 設置場所

- ・志摩市内
- ・国際メディアセンター（IMC）

2. 役割

- ・現地での緊急対応等に係る業務
- ・外務省現地事務所との連携強化、情報収集に係る業務
- ・ドローン条例の施行に伴う関連業務
- ・三重県情報館（仮称）の開設準備、運営に係る業務
- ・インフォメーションセンターの開設準備、運営に係る業務 等

3. 設置時期（予定）

- ・4月中旬～5月末日
※IMCについては、入居可能時期等も含めて別途検討。

4. その他

- ・設置当初はサテライトオフィスとしての活用を念頭に置き、開催1週間前を目途に職員常駐の体制にする予定です。
- ・現地事務所は行政組織規則に基づく組織ではありません。



(2) 伊勢志摩サミットについて

1 国の準備状況

(1) 首脳会議場

志摩観光ホテル

(2) 国際メディアセンター (IMC)

報道関係者の作業スペースや国際放送センター等を備えるサミット取材のための総合施設です。取材拠点としての機能のみならず、広報スペースやダイニングスペース等を備えた仮施設（鉄骨造2階建て延べ床面積8,000㎡）が併設されます。

○ サブメディアセンター (SMC)

賢島付近に設置され、議長会見場も併設されます。また、賢島で行われる公式行事及び二国間会談を取材する代表取材記者のための待機スペースが設置されます。

○ 各国首脳会見場

志摩市内に設置され、IMCから無料シャトルバスが運行される予定です。

(3) 首脳の移動

各国首脳が効率的かつ安全に移動する手段を確保することは、受入れ国にとって重要な課題の一つであり、ヘリでの移動を実施する方向で、関係機関と調整中です。

(4) 配偶者プログラム

具体的な日程及び訪問場所は現在調整中です。

(5) 広報活動

① ロゴマーク

昨年12月28日、大分県の高校3年生が作成した作品を最優秀作品に選定

② PR動画

- ・関係閣僚会合開催都市（10都市）ごとの空港用CM（15秒）：羽田空港
 - ・サミット開催をPRする航空機用CM（30秒）：ANA・JALの全国際線
- （注）4月に放映予定の航空機用CMには、三重県内から選出したジュニア・サミット日本代表4名が出演し、ジュニア・サミット開催について発信予定です。

③ 写真コンテスト

『「世界に届けたい日本」フォトコンテスト』の開催（2月14日まで募集、入賞作品3月下旬以降にサミット関連施設等で展示・掲載予定）

④ シンポジウム（「伊勢志摩サミットで未来をひらけ！集会」）

11月27日（東京）、12月18日（神戸）、1月14日（横浜）

2 県及び県民会議の主な取組状況（12月9日以降）

(1) 「開催支援」に関すること

① 住民懇話会（別紙1）

サミット開催に伴う生活への影響等について情報提供を行うとともに、意見交換を通じて住民の抱える不安を軽減するため、警察本部、海上保安庁、地元4市町と連携し、地元住民の方々を対象に、第2回住民懇話会を開催しました。

今後、第3回住民懇話会を4月下旬から5月上旬に開催する予定です。

○ 第2回住民懇話会

南伊勢町（2月7日、60名）、志摩市9会場（2月7日～2月27日、延べ558名）、伊勢市（2月13日、40名）、鳥羽市（2月28日、26名）

② 宿泊予約センター

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行うため、宿泊予約センターを設置・運営しています。

○ 部屋の確保状況

3月24日から5月29日までを5つの期間に分けて、それぞれの期間に必要と想定される客室を確保できるよう、伊勢志摩地域の全宿泊施設、及び津・亀山以南のビジネスホテル（洋室）を主な対象に取り組んできました。

現時点で、最大2万5千人の宿泊を想定する開催前後（5月24日～29日）の期間以外は必要数を確保できていますが、開催前後の警備関係者や支援事業者用の客室については、対象地域を拡げつつ、引き続き宿泊施設に対し協力を依頼し、必要な客室の確保を進めています。

今後、実際に宿泊する期間・人数・部屋タイプ等が確定し次第、増室及び減室等、宿泊施設と個別調整を行い、協力を依頼していきます。なお、使用見込みがないと判った期間・地域の客室については、昨年11月10日以降、順次、各施設への返還を行っています。

○ 風評対策

4月、5月の伊勢志摩方面への旅行に関し「宿が取れないのではないかな」等の風評が昨年問題となりました。ゴールデンウィーク（GW）明けまで観光客の方に十分宿泊していただくことができ、GW明けも開催直前までは観光客の利用について特別な制限はないことから、観光局と連携し、旅行代理店や観光客への適時的確な情報提供に取り組み、正確な理解の促進と誘客に努めています。

③ 弁当供給体制

警備、消防、医療の関係者等に、県産食材を活用した安全・安心な食事を提供するため、(a) 屋外保管を前提とする大規模かつ継続的な弁当需要と、(b) 屋内保管を前提とする比較的小規模かつ短期・不定期的な弁当需要に分けて、準備を進めています。

(a) 大規模需要への対応（企画提案コンペ）

○ 志摩市エリア（最大想定供給数 21,000 個/日）

- ・ (株) ローソンを代表とする4社の共同事業体
- ・ 県内事業者：オーケーズデリカ（株）（桑名市、弁当製造事業者）、
（株）キャリアカーサービス（津市、運送事業者）

○ 志摩市以外のエリア（最大想定供給数 5,000 個/日）

- ・（株）セブン-イレブン・ジャパンを代表とする 9 社の共同事業体
- ・ 県内事業者：プレミアムキッチン（株）（桑名市、弁当製造事業者）

○ 県産食材の活用

県産米を使用するとともに、その他の県産食材に関しても可能な限り使用に努めるよう事業体に働きかけています。また、農林水産部と連携して、食材及びメニューの提案を行うことで、県産食材が活用されるよう努めています。

(b) 小規模需要への対応

地元の小規模弁当製造事業者による供給が行えるよう、需要が発生するそれぞれの地域の商工団体等との連携・協力を基に、両者のマッチングを促進していきます。志摩市においては、商工会が中心となって供給する体制が準備されています。

④ 輸送サービス

サミット開催時に来県する海外報道関係者が、セントレア・宿泊ホテル間を公共交通機関で移動する際の負担や不便さを軽減するため、開催前後（5月24日、25日、28日）において、セントレア・津なぎさまち間の高速船の増便を依頼するとともに、津なぎさまちと宿泊ホテル間で無料シャトルバスを運行することとしています。

なお、宿泊施設とIMC間では、国によるシャトルバスの運行が検討されています。

○ 高速船

- ・ 航空機の発着が集中する時間帯の運航を通常の1便から2便に増便（各日5便増）
- ・ 通常運航しない時間帯に追加で1便運航

○ シャトルバス

- ・ 津なぎさまちと津・松阪・伊勢・鳥羽・亀山の各方面を結ぶルートを、5月24・25日に11便、28日に12便運行

⑤ 各国先遣隊歓迎夕食会

各国先遣隊（本国政府の関係者がサミットの準備状況確認のために来県するもの）に対し、三重県の食材を生かした料理やお酒、伝統芸能等の披露等によるおもてなしで慰労するとともに、三重の魅力を発信し本国に伝えていただくため、夕食会を開催しています。なお、この機会を捉え、サミット開催前後における各国首脳等と県民との交流（「世界との絆づくり」）を実現するための働きかけを行います。

（注）各国先遣隊の三重県訪問については、国において非公表とされているため、夕食会についても非公表としています。

(2) 「おもてなし」に関すること

① 広報全体計画（節目イベント）（別紙2）

サミット開催に向けた機運を醸成するため、広報・発信のリズムとヤマ場を創る広報全体計画を策定し、節目ウィークを設けて、広報活動を行っています。

○ サミット開催 50 日前（4月6日）ウィーク

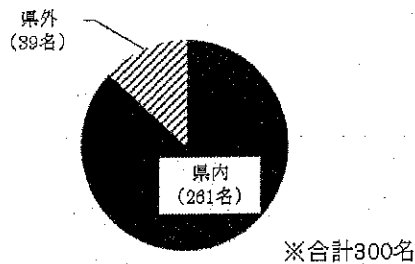
- ・ 花いっぱい作戦のスタートセレモニー（4月2日、桑名市）
- ・ 花の寄せ植え体験講座（4月3日～10日、県庁舎（桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、志摩、伊賀、尾鷲、熊野））
- ・ 第3回伊勢志摩サミットフォーラム（4月16日、津市）
- ・ みえ伊勢志摩フェア（仮称）（4月以降、イオングループ主催） 等

② 外国語案内ボランティア

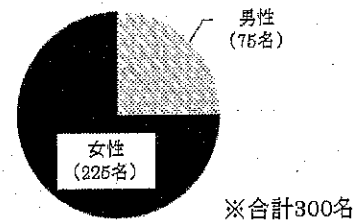
サミット開催に際して、IMCや県内主要駅等に設置するインフォメーションセンター等において、海外報道関係者の円滑な取材・報道活動を支援するため、ボランティアを活用して、外国語による交通や観光の案内、三重県の情報発信等を行います。

- ・ 応募者：1,003名（募集期間：昨年10月13日～12月10日）
- ・ 研修：第1回語学研修（2月14日・鈴鹿市、20日・伊勢市）、第2回語学研修（3月13日・鈴鹿市、26日・伊勢市）、接遇研修（4月）

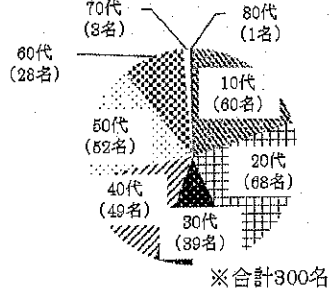
ボランティア採用者内訳（居住地別）



ボランティア採用者内訳（性別）



ボランティア採用者内訳（年代別）



英語に加え他言語にも対応可能な人材

フランス語	22名
ドイツ語	14名
イタリア語	7名
ロシア語	3名
スペイン語	28名
ポルトガル語	3名
中国語	25名
韓国語	4名
タイ語	3名
モンゴル語	1名
ヒンディー語	3名
インドネシア語	1名
タガログ語	2名
チベット語	1名
ビルマ語	1名
トルコ語	1名
ノルウェー語	1名

③ おもてなし向上研修

国際観光地として、世界各国からの訪問者に満足いただけるおもてなしを行うことができるよう、各市町の観光協会や観光案内所等、飲食店や宿泊施設等の生活衛生関係業者を対象に、外国人への接遇や受入準備について学ぶ研修を実施しています。

- ・ 第1回訪日外国人おもてなし研修（2月2日、伊勢市、75名）
- ・ 第2回訪日外国人おもてなし研修（2月24日、津市、76名）
- ・ 接遇研修（4月15日・津市、16日・伊勢市、17日・鈴鹿市）

(3) 「明日へつなぐ」に関すること

① ジュニア・サミット（別紙3）

ジュニア・サミット参加者に三重の魅力に触れていただくとともに、三重県の子どもたちとの交流の機会とするため、4月22日から三重県桑名市を主会場（ナガシマリゾート）として開催されるジュニア・サミットの開催を支援するとともに、討議に資する視察や県内分散型体験・交流行事を実施します。

○ 討議に資する視察先

赤須賀漁業協同組合、四日市公害と環境未来館、NTN（株）先端技術研究所

○ 県内分散型体験・交流行事

県内10箇所を4つのコースに分散して訪問

② 多様な主体における国際理解・国際交流事業

サミット開催を契機に、次世代を担う子どもたちが、サミット参加国について理解を深めるとともに、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとするため、県内の保育所や幼稚園、学校、市町、企業、団体等、多様な主体が行う授業や講座等に、サミット参加国に詳しい方々を講師として派遣しています（全90回実施予定）。また、外務省においても、同省若手職員を講師として、「イチからわかる！サミット塾」を、県内の小学校・中学校・高等学校で実施しています。

○ 国際理解・国際交流プログラム（3月4日時点で、86回実施）

申込延べ196回（北勢81回、中南勢33回、伊賀14回、伊勢志摩67回、東紀州1回）

○ イチからわかる！サミット塾（3月4日時点で、28校実施）

申込34校（北勢12校、中南勢2校、伊賀6校、伊勢志摩12校、東紀州2校）

③ 大学生・留学生との交流事業（別紙4）

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに関係するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催することとしています。

④ 伊勢志摩サミット記念館（仮称）（別紙4）

県民の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うため、伊勢志摩サミット記念館（仮称）を設置することとしています。

(4) 「三重の発信」に関すること

① 三重県情報館（仮称）

サミット開催時に国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の宝や誇り、三重県が持つ日本の素晴らしさを発信するため、IMC内に三重県情報館（仮称）を設置します。

○ 展示コンセプト

「伝統」を守りながらも「革新」を積み重ねることで進化してきた「三重」の「姿」「技」「食」一繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「常若」思想

○ 展示コンテンツ

自然、歴史・文化、伝統工芸、先端技術、食の5分野に分けて、県・市町・企業に照会・募集の上、コンテンツ選定委員会で選定

② プレス等を活用した情報発信（別紙5）

サミット開催を千載一遇の機会と捉え、三重県の認知度向上や開催後の観光客増加等につなげるため、三重の様々な魅力を発信しています。

○ 海外プレスツアー

- ・フランス著名シェフを招へいたプレスツアー（2月15日～19日、伊賀市・伊勢市・志摩市・鳥羽市・多気町・松阪市・名張市）
- ・県民会議主催第2回プレスツアー（2月17日～18日、紀北町・熊野市・尾鷲市）
- ・欧米メディアによるプレスツアー（3月3日～6日、鳥羽市・志摩市・松阪市・伊勢市・亀山市・伊賀市）
- ・県民会議主催第3回プレスツアー（4月～5月、中南勢地域（予定））

○ 航空会社・動画等を活用したPR

- ・ ANA・JAL機内誌等でのPR（3月から順次）
- ・ PR動画の放映（3月から順次、セントレア・関西国際空港・JR品川駅・JR東京駅、京成電鉄成田スカイライナー、名鉄名古屋駅）
- ・ 伊勢志摩サミット三重県公認サポーターの任命（三重県出身の歌手・平井堅氏を任命）（2月19日）

(5) その他

① 協賛、応援、寄附

サミット開催に向けた機運の醸成を図るため、昨年8月31日から県内外の企業、団体、個人からの協賛、応援、寄附の募集を行っています。

3月3日時点で、協賛と応援は合わせて700件以上、寄附金は4億円以上の申込をいただいています。なお、寄附金の一部については、平成28年度に県及び県民会議が実施するポストサミット関連事業に充当し、また県民会議解散時（決算時）に残余となった金額については、県において別途基金を設定する等、平成29年度以降のポストサミット関連事業の財源にすることとしています。

○ 申込状況（3月3日時点）

- ・ 協賛105件（うち登録82件）
- ・ 応援625件（うち登録601件）
- ・ 寄附914件・453,397,381円（法人555件・427,567,370円、個人（一般）112件・25,019,538円、個人（クラウドファンディング）247件・810,473円）

（注）クラウドファンディングは、昨年12月16日から2月29日まで募集しました。

② 経済効果（別紙6）

サミット開催に向けた開催機運の醸成につなげるため、サミット開催による経済効果を試算しています。

2月に中間試算を公表したパブリシティ効果について、再試算し最終報告を8月以降に公表するとともに、経済効果について、直接的な効果とポストサミットの経済効果を試算し、年度内に公表する予定です。

○ パブリシティ効果（中間試算、調査期間 昨年6月1日～1月31日）

国内の伊勢志摩サミットに関する新聞、雑誌、テレビ、インターネットでの記事や番組等を広告料金等に換算し、中間試算額を約440億円と測定。

③ 広域連携の取組

○ 東海三県一市との連携

- ・ 第3回東海三県一市担当課長会議の開催（1月27日、志摩市）

○ 伊勢志摩サミット東海会議

- ・ カウントダウンボード設置（セントレア（12月28日）、名古屋駅（2月16日））
- ・ 歓迎装飾の実施（3月中下旬より順次セントレアと名古屋駅で実施）
- ・ おもてなしブース設置（サミット開催約1週間前）

○ 関係閣僚会合開催自治体との連携

- ・ アンテナショップスタンプラリー（申込1,740件）（1月12日～2月11日、東京）
- ・ 第1回伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議の開催（1月28日、志摩市）
- ・ 首相官邸への表敬訪問（3月10日）

参 考 県の推進体制（12月9日以降）

（1）三重県伊勢志摩サミット推進本部

- ・オール県庁で横断的な体制を整え、円滑な実施を図るため、知事を本部長とし全部局長で構成する「三重県伊勢志摩サミット推進本部」を設置。

12月24日（木） 第8回本部会議

1月27日（水） 第9回本部会議

2月17日（水） 第10回本部会議

<伊勢志摩サミット推進局>

2月1日（月）体制の拡充（3課68名体制）（市2名）

（2）伊勢志摩サミット三重県民会議

- ・オール三重県で、官民一体となった三重県全体の受け入れ体制の確立と関連事業を推進するため、「伊勢志摩サミット三重県民会議」を設立。

12月15日（火） 第5回企画運営部会、事業推進部会

12月18日（金） 第3回役員会

2月2日（火） 第6回企画運営部会、事業推進部会

2月17日（水） 第4回役員会

（3）市町との連絡調整

- ・県内29市町との連絡調整、情報共有を行うため、伊勢志摩サミット市町連絡調整会議を開催。

2月2日（火）、第4回会議

（4）東海三県一市の連携

- ・東海三県一市において情報共有と取組を実践するため、伊勢志摩サミット東海三県一市担当課長会議を開催。

1月27日（水） 第3回会議

（5）関係閣僚会合開催自治体との連携

- ・三重県と関係閣僚会合開催自治体において、情報共有を行うとともに、連携して取組を行うため、伊勢志摩サミット・関係閣僚会合開催自治体連絡会議を開催。

1月28日（木） 第1回会議



第 2 回住民懇話会の開催状況について

1 実施日時・場所・参加者数

- (1) 伊勢市
平成 28 年 2 月 13 日 午後 2 時から午後 3 時までの間
伊勢市生涯学習センターいせトピア 参加者 40 人
- (2) 鳥羽市
平成 28 年 2 月 28 日 午後 2 時 00 分から午後 3 時 00 分までの間
鳥羽市民文化会館 参加者 26 人
- (3) 志摩市
- ア 平成 28 年 2 月 7 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
浜島 B & G 海洋センター 浜島地区住民等 52 人
 - イ 平成 28 年 2 月 10 日 午後 7 時から午後 8 時 20 分までの間
志摩市磯部生涯学習センター 磯部地区住民等 62 人
 - ウ 平成 28 年 2 月 11 日 午後 2 時から午後 3 時 20 分までの間
志摩市役所 阿児地区住民等 94 人
 - エ 平成 28 年 2 月 11 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
志摩市役所 阿児地区住民等 34 人
 - オ 平成 28 年 2 月 13 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
神明地区公民館 阿児地区住民等 99 人
 - カ 平成 28 年 2 月 15 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
賢島パークホテル「みち潮」 阿児地区住民等 53 人
 - キ 平成 28 年 2 月 21 日 午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分までの間
志摩市間崎島開発総合センター 志摩地区住民等 40 人
 - ク 平成 28 年 2 月 27 日 午後 2 時から午後 3 時までの間
志摩市志摩文化会館 志摩地区住民等 90 人
 - ケ 平成 28 年 2 月 27 日 午後 7 時から午後 8 時までの間
大王公民館 大王地区住民等 34 人
- (4) 南伊勢町
平成 28 年 2 月 7 日 午後 2 時から午後 3 時までの間
南伊勢町民文化会館 参加者 60 人
参加者合計 684 人

2 実施者

- (1) 主催
三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局
- (2) 共催
三重県警察、第四管区海上保安本部及び地元 4 市町

3 説明内容

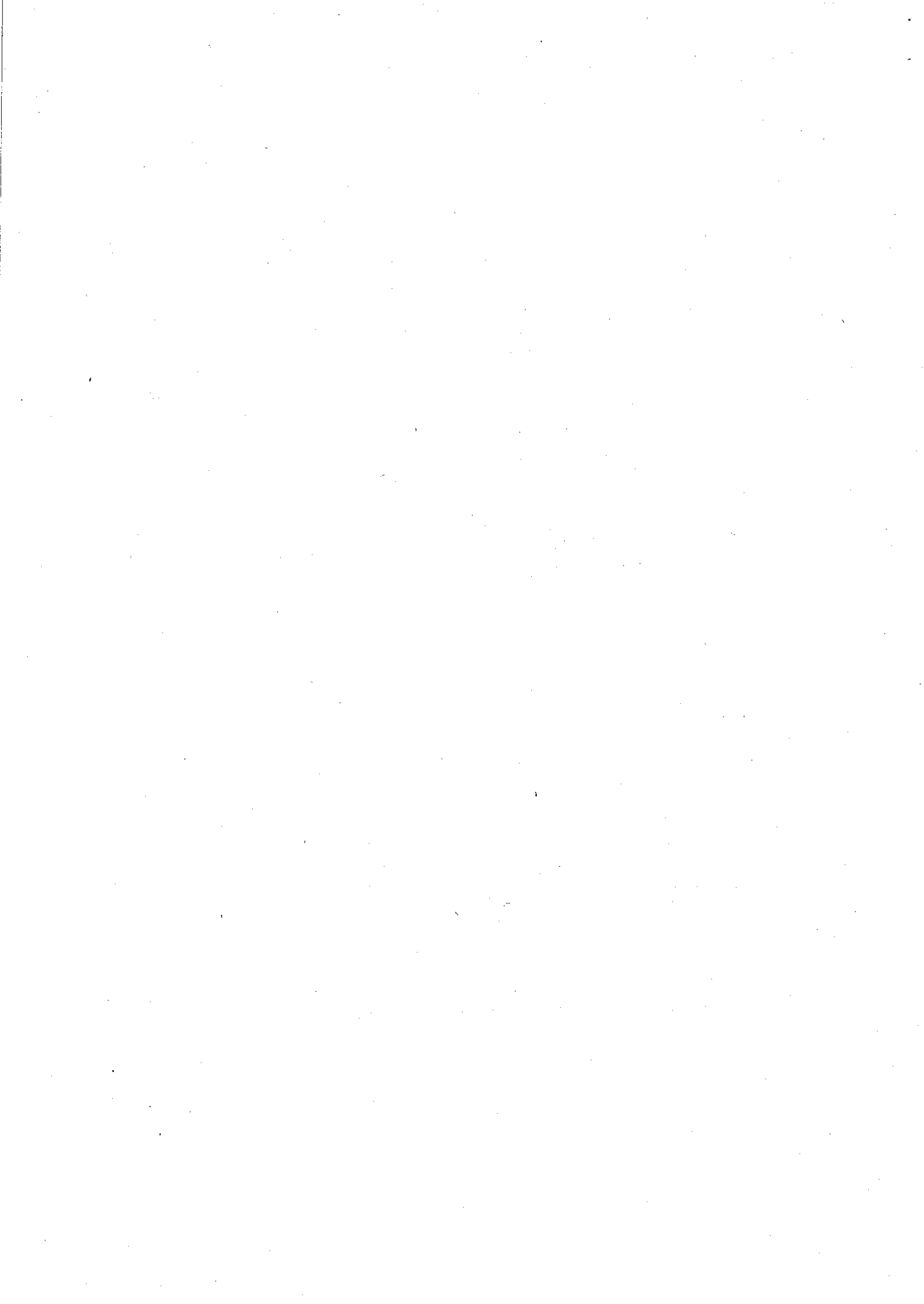
- (1) 三重県
- ア 三重県民会議による取組状況の説明
 - イ 防災対策部による取組状況の説明
- (2) 三重県警察・第四管区海上保安本部
- ア 警備計画の進捗状況
 - イ 警備による住民生活への影響状況
 - ウ 今後の警備方針
- (3) 地元自治体
- ア イベントの実施計画
 - イ 警備への協力要請

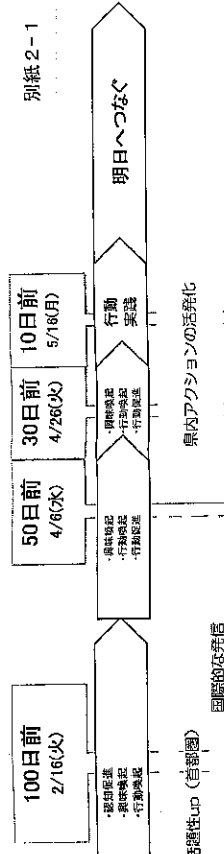


4 質問内容

懇話会への出席者からは、IDカードや車両通行証の発行手続き、警備の開始時期や検問場所、海上航行や漁業への影響度合い等、具体的な警備の手法等についての質疑がありました。

各機関からは、現在関係機関と調整中であり、決定次第情報発信する。具体的な警備手法等については、公表は難しいが交通規制や迂回路等の情報は、決定次第、積極的に発信していきたい。等の回答がされました。





広報アクション	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	5/26,5/27	6月
開催支援												
開催機運盛り上げのための レセプション インフォメーションセンター ポランテアの募集・研修												
サミットフォーラム												
おもてなし向上研修												
おもてなし大作戦												
クリーンアップ作戦												
花いっぱい作戦												
カウンタダウンボード												
県、市町との連携事業												
メディアサミット												
県内学校・民間団体等にお ける国際理解・交流												
県内外イベントでのPR												
ポータルページ・SNS												
動画CM												
情報誌・ハンドブック												
ポスター												
みえだより												
具だより												
シンボルマーク												
海外プレスツアー等												
海外ミッションでのPR等												
三重県情報誌（仮称）												
協議、広域、寄附												
各種広報事業等との連携												

県内アクションの活発化

全国的な話題性UD（首都圏）

国際的な発信

県内一般

広報テーマ

重点エリア

明日へつなぐ

明日へつなぐ

明日へつなぐ

明日へつなぐ

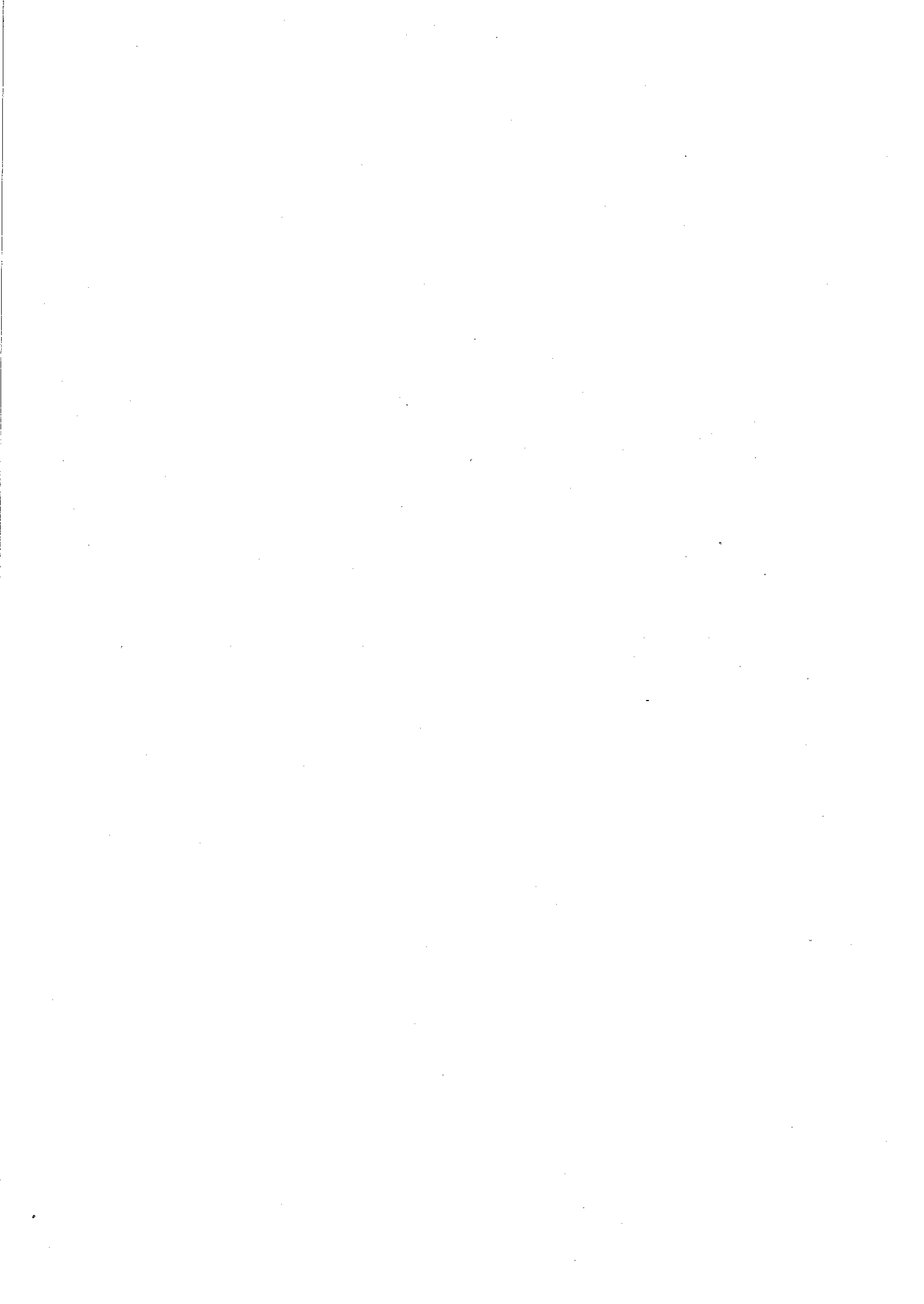
明日へつなぐ

明日へつなぐ

明日へつなぐ

明日へつなぐ

明日へつなぐ



節目イベント（100日前ウィークイベント）の概要

2月16日を中心とする100日前ウィークに皆さんに参加いただく「おもてなし大作戦」のキックオフイベントを開催しました。また、全国的な話題性の向上を図るとともに国際的な情報発信にも取り組みました。

1 県民の皆さんの参加に向けた取組

(1) 「おもてなし大作戦」キックオフイベント

サミットに向けたおもてなし機運の醸成や一体感の構築を図るため、キックオフイベントを開催しました。

- ①日時 平成28年2月14日（日）
- ②場所 阿児ふるさと公園芝生広場（志摩市阿児アリーナ横）
- ③参加者 約700名（自治会等関係者、市町関係者、協賛・応援団体等）
- ④内容 キックオフセレモニー・交流会等

(2) 外国語案内ボランティアへの研修開始

国際メディアセンター、県内主要駅等で外国報道関係者の移動支援等を行う外国語案内ボランティアへの研修を開始しました。

- 2月14日（日）10時から15時まで 鈴鹿医療科学大学白子キャンパス
- 2月20日（土）10時から15時まで 伊勢市観光文化会館
- 参加者：296名

2 国際的な情報発信に向けた取組

三重県情報の海外への発信に向けプレスツアーを実施するとともに、ASEAN各国駐日大使等を招いた「ASEAN環境フォーラム」を開催しました。

(1) 海外プレスツアー

- ①第2回県民会議主催プレスツアー
- ②フランスの著名シェフ、フランスメディアを招へいしたプレスツアー
- ③欧米のメディアを招へいしたプレスツアー

(2) 海外メディアでの広告展開

ニューズウィークUS版 2月12日発行号に掲載

(3) 「ASEAN環境フォーラム in 三重」

ASEAN各国駐日大使等を招いてのパネルディスカッションや、宇宙飛行士の毛利衛氏による環境講演会を実施しました。

- 日時：2月12日（金）14時30分～17時50分
- 場所：四日市都ホテル
- 参加者：300名

3 「三重ウィーク in 日本橋」

2月11日（木：祝）から22日（月）、東京日本橋において、記念イベント「三重ウィーク in 日本橋」を開催しました。

- ・プレス発表会及び食レセプション
- 日時：2月11日（木・祝）

- 会場：三重テラス
 参加メディア：24社40名
- ・伊勢志摩サミット100日前記念フォーラム「The spirit of “和”」
 日時：2月16日（火）
 会場：ビジョンセンター東京
 参加者：120名
 - ・お伊勢参り食べ歩きツアーin日本橋
 日時：2月16日（火）～22日（月）
 会場：東京日本橋エリア（三重テラス、日本橋三越本店、コレド室町1等）
 参加者：425名

4 ホームページ、SNSのリニューアル（2月17日）

株式会社FIXERにホームページの開発を協賛いただき、県民会議のホームページをリニューアルしました。

5 東海3県1市との連携

2月13日（土）～14日（日）に二子玉川ライズで実施された、「伊勢志摩サミット開催100日前記念 三重県フェア in 二子玉川ライズ」に東海3県1市が連携した取組としてブースを出展しました。

6 応援事業等との連携

2月21日（日）「美し国みえ市町対抗駅伝 市町交流市場物産展」へ出展し、PRを実施するとともに、G7各国にちなんだパン等の販売を実施しました。



「おもてなし大作戦」キックオフイベント
 (H28.2.14) (於：志摩市)



外国語案内ボランティア語学研修
 (H28.2.14) (於：鈴鹿医療科学大学)



著名人招へいプレスツアー

(H28.2.16) (於：有限会社佐藤養殖場)

ジュニア・サミットについて

1 目的

ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 事業の概要

(1) 開催内容について

- ・名称：「2016年ジュニア・サミットin三重」
- ・開催期間（予定）：平成28年4月22日から28日まで
(4月21日会場入り、4月29日東京出発)
- ・主会場：ナガシマリゾート（桑名市長島町浦安）
- ・主催：外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議
- ・討議テーマ：「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」
- ・参加者：G7各国の原則として15歳～18歳の4名のチーム（男性2名、女性2名）及び付添人1名
- ・使用言語：英語
- ・プログラム（暫定）
 - 4月21日（木）桑名市到着
 - 4月22日（金）開会式、会議
 - 4月23日（土）会議、討議に資する視察、交流行事
 - 4月24日（日）会議
 - 4月25日（月）県内分散型体験・交流行事
 - 4月26日（火）会議、三重県送別行事、東京に移動
 - 4月27日（水）政府首脳に成果文書提出（27日又は28日）、都内視察
 - 4月28日（木）同上
 - 4月29日（金）東京出発

(2) 日本代表参加者（4名）

- ・稲葉 陽樹（いなば はるき）
三重県立津高等学校 2年生 17歳 男子 津市在住
- ・加藤 杏弥（かとう あみ）
三重県立川越高等学校 2年生 16歳 女子 四日市市在住
- ・上堀内 陸王（かみほりうち りくおう）
私立東海高等学校（愛知県） 1年生 16歳 男子 桑名市在住
- ・藤山 春衣（ふじやま はるい）
三重県立四日市高等学校 2年生 18歳 女子 四日市市在住

(3) 討議に資する視察について

討議テーマである「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」に基づき、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をすすめる方策について議論するため、三重県ならではの討議テーマに関する視察を行います。

① 実施予定日 平成28年4月23日(土)午後

② 視察先

・赤須賀漁業協同組合(桑名市大字赤須賀86番21号)

・四日市公害と環境未来館(四日市市安島一丁目3番16号)

・NTN(株)先端技術研究所(桑名市陽だまりの丘5丁目105番)

※なお、視察後、主会場となる桑名市から提案した交流行事(なばなの里での交流)が予定されています。

(4) 県内分散型体験・交流行事

ジュニア・サミットにおける討議日程終了後、ジュニア・サミット参加者の皆さんが県内4コースに分散して各地を訪れ、三重の美しい自然や豊かな伝統・文化などを体験・体感するとともに、県内高校生をはじめ県民との交流を深めます。

① 実施予定日 平成28年4月25日(月)

② 訪問先(4コース分散型)

Aコース 御在所ロープウェイ(菰野町)、鈴鹿サーキット(鈴鹿市)、関宿(亀山市)

Bコース 深野だんだん田(松阪市)、まごの店(多気町)、一身田寺内町 専修寺(津市)

Cコース 伊賀流忍者博物館(伊賀市)、赤目四十八滝(名張市)

Dコース 伊勢神宮(伊勢市)、いつきのみや歴史体験館(明和町)

4 今後の取組方針

(1) ジュニア・サミットに日本代表として参加する高校生については、引き続き事前研修を行います。

(2) 県内高校生等との交流を含む県内分散型体験・交流行事については、関係市町及び関係施設と実施に向けた調整を行っていきます。

(3) 開催日程を通して、県内高校生等と参加者の交流や、県内農業高校による飾花活動等、少しでも多くの県内高校生が参画できるよう、引き続き外務省と協議します。

(4) 開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、県内の市町や関係者と緊密な連携を図っていきます。

サミット開催後に県民会議が実施する事業について

1 大学生・留学生との交流事業について

(1) 目的

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに関するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催し、サミット開催地・三重県が次世代グローバル人材育成の地となることを目指す。

(2) 概要

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招聘し、県内大学生、留学生との討議や交流の機会を設ける。

①時期（予定）

平成28年8月末～9月当初

※3泊4日程度を想定

②開催場所（予定）

伊勢市及び南伊勢町

③取組内容（予定）

○サミットのテーマ等に関する討議

○討議に資する現場体験・学習

○討議成果の発表 など

④参加者（予定）

○首都圏を中心とする県外大学生、大学院生、留学生

○県内大学生、大学院生、留学生

⑤参加人数（予定）

100人程度

2 伊勢志摩サミット記念館（仮称）の設置について

(1) 方針

県民の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。

「明日へつなぐ」事業として、子どもたちの学習機会となるような展示も勘案した、体験型の要素を含めた記念館とする。

(2) 設置時期

平成28年度内～サミット開催1年後の間において検討していく。

(3) 設置場所

- サミット開催の記念となるにふさわしい場所
- 既存の建物を生かせる場所
- アクセス的にも多くの人が触れることのできる場所を検討していく。

(4) 展示内容

- 首脳会議場等での調度品、三重県情報館（仮称）での展示品を中心に選定する。
- 物品の展示に加え、動画の利用等、動的な要素も盛り込む。

海外への情報発信について

1 目的

海外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や多彩なコンテンツを人への取材を通じて体感いただき、三重県の魅力を海外へ発信することで、三重県の認知度を高め、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげる。

2 内容

海外のメディア等を対象としたプレスツアーについては、これまでに 14 回実施しました。三重県を訪れた皆さまに様々な形で三重の魅力を体感いただき、その結果として、少なくとも延べ 13 ヶ国で 25 本記事・映像化されました。

(1) 第 2 回県民会議プレスツアー

①日程：平成 28 年 2 月 17 日(水)、18 日(木)

②参加者：3 カ国のメディア 4 名

(アメリカ 1 名、フランス 1 名、カザフスタン 2 名)

③テーマ：豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業、
ニーズをつかんだアイデア豊かな水産業

④取材先(訪問順)：

速水林業(紀北町)、三重県立熊野古道センター(尾鷲市)、

松本峠(熊野市)、花の窟神社(熊野市)、ビジョン早田実行委員会(尾鷲市)、

尾鷲物産株式会社(尾鷲市)、株式会社ディーグリーン(紀北町)、

知事インタビュー

⑤概要：険しい道を歩いて伊勢神宮又は熊野三山に参詣する熊野古道の精神性、コストダウンを図りながらも品質の高い木材を育てるシステム、ブリ養殖の餌のやり方、東日本大震災 5 年の節目ということもあり津波の来襲などについて記者から質問がなされていました。

(2) 欧米トップクラスの著名人を招へいしたプレスツアー

①日程：平成 28 年 2 月 15 日(月)～19 日(金)

②招へい者：シシル・リニャック氏(ミシュラン一つ星シェフ)他

③招へいメディア：フランスメディア 3 名

④テーマ：一流の人物を通して三重県の食と文化の魅力を海外の富裕層に発信する

⑤取材先(訪問順)：

宮崎屋株式会社(伊賀市)、せんぐう館(伊勢市)、有限会社佐藤養殖場(志摩市)、

海の博物館(鳥羽市)、答志島(鳥羽市)、まるてん有限会社(志摩市)、

伊勢神宮(内宮)(伊勢市)、おかげ横丁(伊勢市)、相可高校(多気町)、

株式会社三重エスカルゴ開発研究所(松阪市)、株式会社桔梗屋織居(伊賀市)、

有限会社精肉のオクダ(名張市)、瀧自慢酒造株式会社(名張市)

⑥取材した主な食材：的矢かき、海苔、答志島の魚介類、伊勢えび、伊勢茶、伊賀牛、三重ジビエ

⑦概要：伊勢志摩、松阪、伊賀地域でそれぞれこだわりを持って生産されている食材、調理方法などを視察。食材については、常に料理人としての視点

で食材の生産者に質問していました。宮崎屋（シソドレッシング）、三重のお米についてはレストランで使用したいとの発言もあり、農林水産部に協力いただきお米のサンプルを持ち帰っていただきました。

(3) 欧米のメディアを招へいたしたプレスツアー

- ①日程：平成28年3月3日（木）～6日（日）
- ②招へいメディア：イタリアを中心とした7メディア、10名
- ③テーマ：三重県の食と文化を海外有力メディアを通して欧米の富裕層に発信する
- ④取材先（訪問順）：
鳥羽ビューホテル（鳥羽市）、横山展望台（志摩市）、まるてん有限会社（志摩市）、海女小屋（相差かまど）（鳥羽市）、和田金（松阪市）、せんぐう館（伊勢市）、伊勢神宮（内宮、外宮）（伊勢市）、五十鈴茶屋（伊勢市）、おかげ横丁（伊勢市）、夫婦岩（伊勢市）、賓日館（伊勢市）、ミキモト真珠島（鳥羽市）、関宿（亀山市）、長谷園（伊賀市）
- ⑤取材する主な食材等 和食文化、鯉節、松阪牛、和菓子

(4) 外務省主催プレスツアー

- ①日程：平成28年1月30日（土）
- ②参加者：クウェートメディア1名
- ③テーマ：ムスリム対応など
- ④取材先（訪問順）：
有限会社佐藤養殖場（志摩市）、海女小屋（はちまんかまど）（鳥羽市）、伊勢神宮（内宮）（伊勢市）、おかげ横丁（伊勢市）、有限会社オズ（海島遊民くらぶ）（鳥羽市）
- ⑤概要：海女小屋（はちまんかまど）では、イスラムの礼拝所や清める施設を熱心に見学するとともに、イスラム教徒の国の中で、どの国の観光客が多いか、また海女の潜りや呼吸について、熱心に質問していました。また、有限会社オズ（海島遊民くらぶ）では、礼拝所等の施設を見学するとともにムスリム対応が街全体の取組となってきたことについて、素晴らしい取り組みであり、ぜひ記事にしたいとコメントがありました。

(5) 海外有力メディアを活用した情報発信

海外有力メディアに取材の提案を行うと同時に、記事広告等による三重県のPRを行い、サミット開催後の三重県全体の活性化につなげる。

（主な取材メディア）ニューズウィークUS版（2月12日発行号に掲載）

3 今後の予定

伊勢志摩サミット三重県民会議主催の第3回プレスツアーは、サミット開催前の4月から5月にかけて中南勢地域を中心に実施する予定であり、今後、関係機関と調整を進めていきます。また、外務省など他団体主催のプレスツアーも含め、事業全体で県内全域の情報発信となるよう努めます。

海外有力メディアの活用についても、引き続き、サミット開催を契機に、三重県の魅力が世界に発信されるよう、さまざまな手法によるアプローチを行います。

Tradition and innovation behind the economic revolution of Mie Prefecture, host of the 2016 G7 Summit

Mie Prefecture – an area of Japan that symbolizes the country's ancient culture and traditions – has been chosen to host the G7 Summit, with the event set to create a direct economic impact of more than 50 billion yen

Eight Japanese cities including Hiroshima, Kobe, Nagoya, Sendai, Niigata, Karuizawa and Hamamatsu, bid to host next year's G7 Summit, but after months of careful consideration, Japanese Prime Minister Shinzo Abe announced that the Ise-Shima region in Mie Prefecture would host the 42nd edition of the meeting, which will be held on May 26-27, 2016.

Prime Minister Abe has a long and special history with the area and with the Shima Kanko Hotel, which he visited as a child. Famous for pearl farms and female sea divers (known as Ama) who catch abalone and other varieties of shellfish, Mie Prefecture is punctuated by Jingu, the Grand Shrine of Ise – a 2,000-year-old shrine dedicated to *Kami* (a Shinto deity) of the Imperial family that Japanese Prime Ministers visit every year after the New Year's holiday.

"I hope world leaders will feel the rich culture and tradition and beautiful nature," said Prime Minister Abe when he made the announcement that Mie Prefecture and Ise-Shima were chosen to host the Summit.

The Prime Minister was also likely influenced in his decision to choose Ise-Shima by the fact that it boasts excellent security. Closing down the two bridges on the island of Kashiokojima means that the G7 venue will be completely isolated from the main island, but it is nonetheless well communicated with the rest of the world through Chubu International Airport.

Yet in addition to cultural and logistical advantages, Eikei Suzuki, the Governor of Mie Prefecture, also believes that Ise-Shima is a prime host for the Summit because it is located in an exemplary Japanese prefecture. In addition to having the lowest unemployment rate in Japan, Mie Prefecture has had lowest number of bankrupted enterprises over the past 20 years and the highest GDP, according to Mr. Suzuki. "Abenomics has had a very favorable impact here," he says. "We have excellent traditions, technology; and we would like to represent such excellence to the world."

Governor Suzuki, who became Japan's youngest Governor when elected in 2011, says that according to some analysts the direct economic impact of the G7 Summit in the country will be around 51 billion yen (\$425 million), resulting

largely from infrastructure projects. However, the indirect impact – including tourism consumption in the next five years – has also been estimated to hover closer to 175 billion yen.

Expanding the tourism industry is key to achieving sustainable economic growth in the prefecture, which has already seen its international profile significantly boosted by collaboration with Trip Advisor and other Internet-related services. "We would like to communicate more globally and in addition to Tokyo, Osaka, and Kyoto, we would like to put Mie Prefecture on the map," says Mr. Suzuki, who aims to attract more MICE (meeting, incentive travel, convention and exhibition/event) tourism following the successful hosting of the G7.

With more than 70 golf courses, the prefecture is already well positioned to attract global tourism, although luxurious greens are not the only thing it plans to build its economy around. A hub for industry and innovation, the Mie Prefecture is expected to achieve the highest economic growth rate by 2025, according to the mid-term economic forecast released by the Japan Center for Economic Research, and already produces more manufactured goods per capita than any other region of Japan. "That means that the productivity of Mie prefecture is number one in Japan," adds Mr. Suzuki.

Some of Japan's biggest companies, Honda, Toyota and Toshiba all have manufacturing plants in the prefecture, which in recent years has expanded into more advanced industries, including the manufacturing of semiconductors and liquid crystal displays. In the Hokusei and Iga regions, a cluster of pharmaceutical, cosmetics and medical equipment manufacturers drive Mie's growing medicine and health sectors, which also include R&D efforts in areas such as functional foods and DNA sequencing.

While Mie Prefecture has been very active and strong in electronics, automobiles and petrochemicals, the Governor says that the next priority segment for growth is the aerospace industry. "We have signed an MOU with Washington State regarding the aerospace industry, as well as with the Val-d'Oise department, which is one of the centers of aerospace industry in France." Mitsubishi Heavy Industries announced in June last year that it would establish an "industrial cluster" in Matsusaka City to manufacture parts for commercial aircrafts, including the Mitsubishi Regional Jet and airplanes manufactured by Boeing.

The governor has very proactively established partnerships with foreign partners in the aerospace, electronics, IT, automotive and petrochemicals industries, and has also established a unique incentive program under which foreign companies that invest more than 500 million yen can get a 20% subsidy on their investment.



"I think that the five important elements that decide investments are: economic growth, traffic and infrastructure, concentration of global industries, excellent human resources, and SMEs with excellent technology; Mie Prefecture has all five of these."

Eikei Suzuki,
Governor of Mie Prefecture.

In order to stimulate prolonged investment from smaller companies, he has also borrowed the airline mileage system model so that companies can accrue investment points over time, and benefit from the same 20% subsidy once they have hit the 500 million yen investment mark.

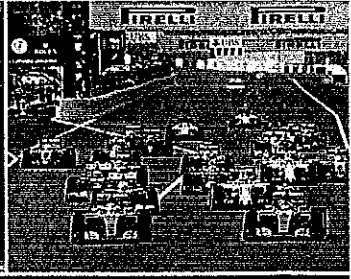
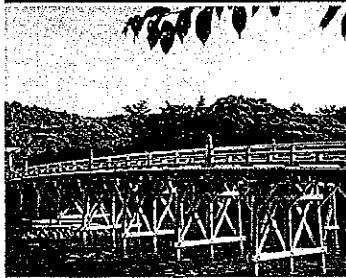
Aside from investment incentives, Mr. Suzuki believes that Mie has the five most important elements for investors: "economic growth, traffic and infrastructure, concentration of global industries, excellent human resources and SMEs with excellent technology." Investors should also consider its strategic location, just one and a half hours from Osaka and two and half hours from Tokyo.

"I always use the same expression for the brand of Mie prefecture: 'Tradition and innovation'," the Governor concludes. "The tradition is Jingu and the Ama; and on the other hand innovation regarding companies that utilize high technology. Both, tradition and innovation coexist and I think that is one of the strengths of Mie prefecture."



THE SACRED HEART OF JAPAN WELCOMES THE G7 SUMMIT

Mie Prefecture, located in central Japan, has been chosen by Prime Minister Shinzo Abe to host the 2016 G7 Summit of world leaders. The ancestral heartland of Japan, Mie Prefecture was chosen so that world leaders may "feel firsthand the beautiful nature, rich tradition and spiritual essence of Japan."



ニューズウィークUS版広告の仮訳（2月12日発行号掲載）

※本仮訳は、原文をもとに、伊勢志摩サミット三重県民会議事務局で作成

2016年G7サミット開催地、三重県の経済革命の背景にある伝統と革新
日本の古くからの文化、伝統を象徴する三重県が、500億円以上の直接的な経済効果を生むG7サミット開催地に選ばれた。

広島、神戸、名古屋、仙台、新潟、軽井沢、浜松を含む日本の8都市が翌年のG7サミットの開催地に名乗りを上げたが、数ヶ月に及ぶ熟慮の末、安倍晋三総理大臣は、三重県の伊勢志摩地域が2016年5月26日、27日に行われる42回目のサミットの開催地になると発表した。

安倍総理は幼少時、この地域と志摩観光ホテルに訪れたこともあり、特別な思いをもっている。真珠養殖や、アワビ・その他の甲殻類を捕える「海女」として知られる女性のダイバーに加え、三重県には、2000年の歴史を持つ神社であり、皇室の祖となる神（神道の神）が祀られ、日本の総理大臣が毎年正月明けに参拝する伊勢神宮がある。

「世界のリーダーたちに、日本の豊かな文化・伝統、美しい自然を肌で感じてほしい。」安倍総理は、三重県、伊勢志摩をサミットの開催地として選んだ会見で述べた。

また、最高の警備体制を取れるということも、安倍総理が、伊勢志摩を選んだ理由の一つかもしれない。賢島にある2つの橋梁を閉鎖すれば、賢島は本土から完全に隔離されるが、一方で、中部国際空港を経由して、世界各地からのアクセスも良好である。

鈴木英敬三重県知事は、文化的、地理的な利点に加え、三重県が手本となる県である点で、伊勢志摩がサミット開催地にふさわしいと考えている。鈴木知事によると、三重県は、日本の中でも完全失業率が低く、また県内の経済状況についても、直近20年間の中で倒産件数が最も少なく、県内GDPも過去最高を記録している。鈴木知事は、「アベノミクスは三重県にとっても良い影響を与えている。」「三重県には、豊かな伝統と最高の技術がある。これを世界に向けて発信したい。」と述べる。

2011年に全国最年少知事として当選した鈴木知事によると、一部のアナリストは、主に社会資本整備の結果、サミット開催による全国への直接的な経済効果は、約510億円（4億2,500万ドル）に上ると試算している。また、サミット開催後5年間の観光消費額を含む間接的な経済効果は、1750億円に達するとの試算もされている。

観光産業の拡大は、三重県にとって持続的な経済成長の鍵となるが、トリップアドバイザーや他のインターネット関連サービスとの提携により、知名度が向上している。

「私たちは、さらにグローバルに展開し、東京、大阪、京都に次いで、三重県の名を世界に知らしめたい。」と鈴木知事は述べており、サミット開催に続き、より多くのMICE（会議、インセンティブ旅行、国際会議、展示/イベント）を誘致することを目標としている。

三重県には70以上のゴルフ場があり、非常に魅力的な場所であるが、その贅沢なグリーンだけが、三重県の経済活性化の手段ではない。三重県は、産業やイノベーションのハブとして、日本経済研究センターの中期経済予測において、2025年までの経済成長率が最も高い都道府県であり、すでに一人当たりの製造品出荷額では日本一となっている。「これは、三重県の製造業の生産性が日本一であるということの意味している。」と鈴木知事は加える。

ホンダ、トヨタ、東芝等の日本の大企業の製造工場が三重県にはあるが、近年では、半導体や液晶画面を含む先端技術産業の製造工場も進出している。北勢や伊賀地域では、医薬品、化粧品や薬事関連企業が集積しており、機能性食品やDNA配列のような研究開発も含む三重県の医薬、健康分野での成長に貢献している。

また、三重県は電子機器、自動車、石油化学の分野に力を入れており、そこに強みを持っているが、次の成長産業は航空宇宙産業であると鈴木知事は述べる。「私たちはワシントン州と航空宇宙産業に関するMOUを締結した。また、フランスの航空宇宙産業の集積地の一つであるヴァルドワーズ県ともMOUを締結した。」三菱重工業は昨年6月、松阪市にMRJとボーイングの商用航空機の部品製造のための「産業クラスター」を設立すると発表した。

知事は時代を先取りし、航空宇宙、電子機器、IT産業、自動車等の分野で、海外パートナーとの関係を構築しつつある。また、外資系企業が5億円以上の投資を行うと、20%の補助を受けられるという特徴的なインセンティブ制度を創設した。

海外の比較的小規模な企業からの継続的に投資を呼び込むため、航空会社のマイレージ制度をモデルとした投資ポイント制を導入し、投資水準が5億円に達した時点で20%の補助を受けられる制度を設けた。

これらの投資優遇策に加え、三重県は投資家が重要と考える5つの要素「経済成長、交通とインフラ、グローバル産業の集積、優秀な人材、技術力の高い中小企業」を持っていると、鈴木知事は考えている。投資家は、大阪から1.5時間、東京から2.5時間という戦略性のある立地も考慮に入れるはずだとも。

「私は三重県のブランドを表現するとき、いつも同じ表現を使っている。「伝統と革新」だ。」と知事は結ぶ。「伊勢神宮や海女の伝統がある一方で、高い技術をもつ企業による革新が生まれる。伝統と革新が共存することが、三重県の強みの一つだと考えている。」

「私は、投資を決める際に重要な5つの要素は、経済成長、交通とインフラ、グローバル企業の集積、優秀な人材、技術力の高い中小企業と考えている。三重県は、これらのすべてを持っている。」鈴木英敬三重県知事

日本の聖地が、G7サミットを歓迎する。

日本の中央に位置する三重県は、世界のリーダーが集まる2016年G7サミットの開催地として、安倍総理に選ばれた。日本の古くからの中心地である三重県は、世界のリーダーに、美しい自然、豊かな伝統、日本の精神性を肌で感じてもらうために、選ばれた。

伊勢志摩サミットに係る経済効果の試算について

1 目的

県民会議として、伊勢志摩サミット（以下「サミット」という。）開催による経済効果を試算・公表することにより、サミット開催に向けた全県的な取組を加速させるとともに、開催機運の醸成につなげる。

2 方針

サミットの開催に伴う経済効果については、①サミット開催による直接的な経済波及効果（以下「直接的な効果」）、②メディアを通じた報道を広告換算等したパブリシティ効果、③開催後のポストサミットの経済効果を試算・公表する。

3 パブリシティ効果（中間試算（2月23日に公表））

(1) 試算結果 約440億円

(2) メディア別内訳

対象メディア	件数	広告換算値
新聞	1,425	約50億円
雑誌	28	約1億円
テレビ	482	約230億円
インターネット	21,425	約159億円
合計		約440億円

(3) 中間試算の前提条件

- 国内における伊勢志摩サミットに関する記事や番組等によるパブリシティ効果について、サミット開催決定後の紙面掲載件数や放映時間数等を、広告料金やCM料金等に換算し測定。
- 調査キーワード：「伊勢志摩」＋「サミット」
- 主な調査対象エリア：首都圏
- 調査対象メディア：新聞、雑誌、テレビ、インターネット
 - ・新聞：一般新聞全国紙5紙（読売、朝日、毎日、日経、産経）
スポーツ紙全国紙5紙（日刊スポーツ、スポーツニッポン、デイリースポーツ、スポーツ報知、サンケイスポーツ）
 - ・雑誌：ビジネス・経済雑誌4誌（日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、週刊エコノミスト）
 - ・テレビ：NHK及び民放在京キー局5局（フジテレビ、テレビ朝日、日本テレビ、テレビ東京、TBSテレビ）

・インターネット：日本語のメディアサイト

○調査対象期間：平成27年6月1日から平成28年1月31日まで

(注1) テレビについては、放映権や著作権等の問題があることから、可能な限り抽出。

(注2) インターネットについては、日本語のメディアサイトから可能な限り抽出。なお、ログインが必要なサイトは対象外としている。

(4) 広告換算値の算出方法

○新聞・雑誌：記事の文字数を計測し、広告料金を乗じて算出

(画像・図は含まず)

○テレビ：放映時間を計測し、CM料金を乗じて算出

○インターネット：該当サイトへの週間の訪問者数を計測し、サイト上に1回表示される単価を乗じて算出

2 今後のスケジュール

パブリシティ効果については、サミット終了後に再試算したものを、8月以降に公表する予定。なお、最終試算においては、平成27年6月1日から平成28年6月30日までの期間の国内外のメディア（新聞、雑誌、テレビ、インターネット）について再試算を行う予定。

直接的な効果については、県の予算に加え、国・市町の予算や民間投資額等のうち、県内に直接生じる費用をもとに、三重県地域間産業連関表を利用して、年度内を目途に中間試算を公表する予定。また、ポストサミットの経済効果についても、直接的な効果と併せて、公表する予定。